

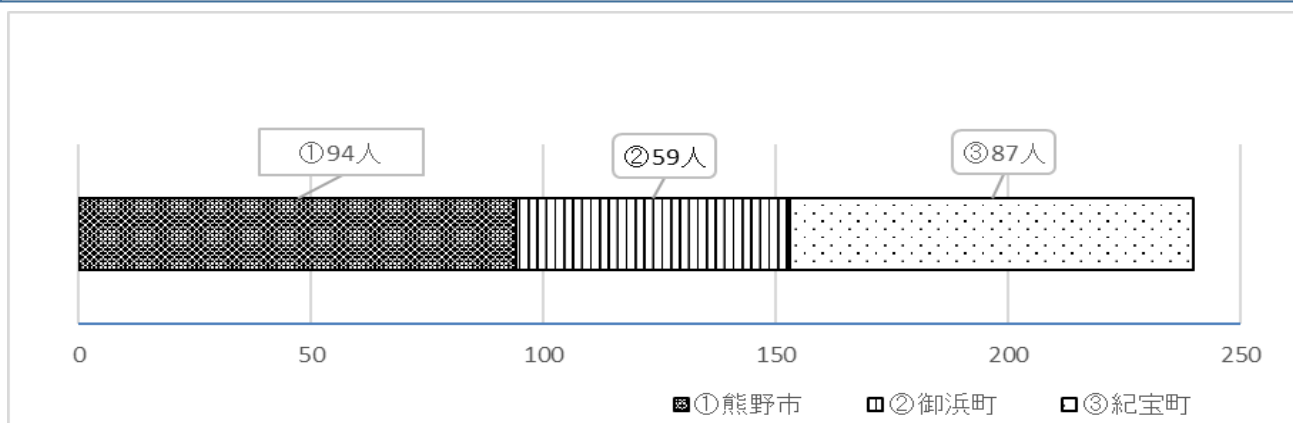
令和4年度 紀南地域の県立高校に関するアンケート結果（対象：生徒）

紀南地域高等学校活性化推進協議会

- 調査期間 : 令和4年9月中旬～10月14日（金）
- 調査対象 : 紀南地域の中学2年生全員 262人
（熊野市・御浜町・紀宝町）
- 調査形態 : 一人一台端末のC B Tシステム利用
- 回答者数 : 240人（回収率91.6%）

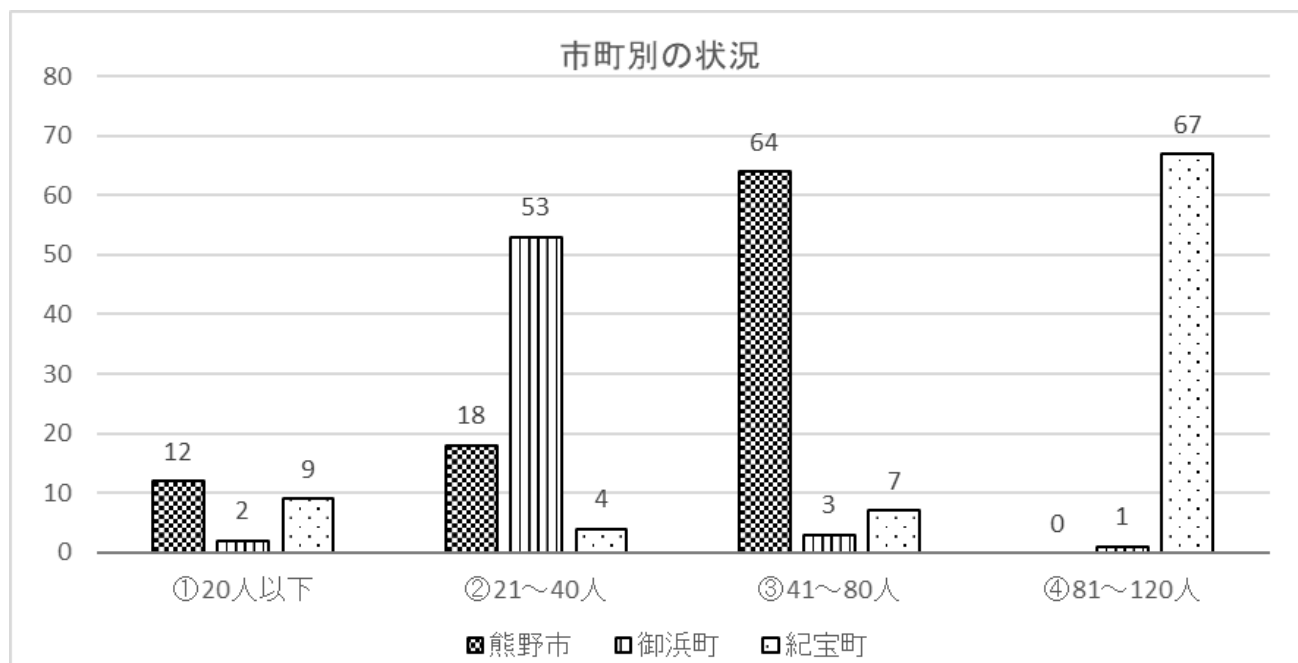
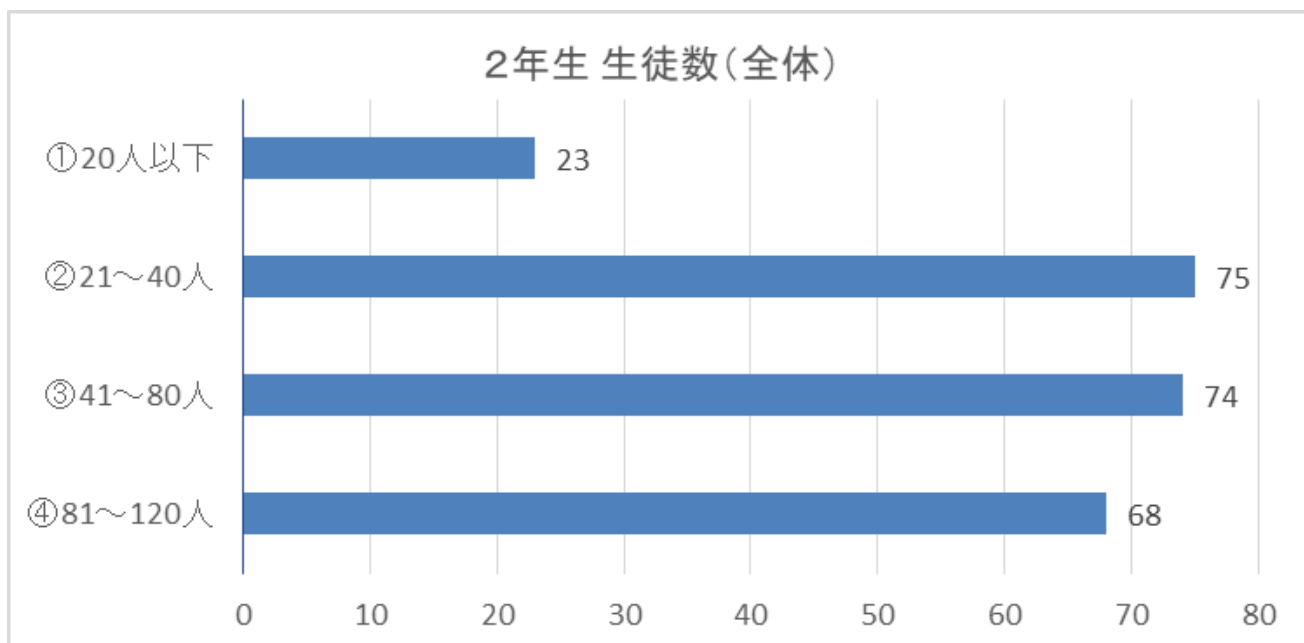
1 あなたは、どこに住んでいますか。次から1つ選んでください。

- ① 熊野市 ② 御浜町 ③ 紀宝町



2 あなたの学校の2年生の生徒数は何人ですか。次から1つ選んでください。

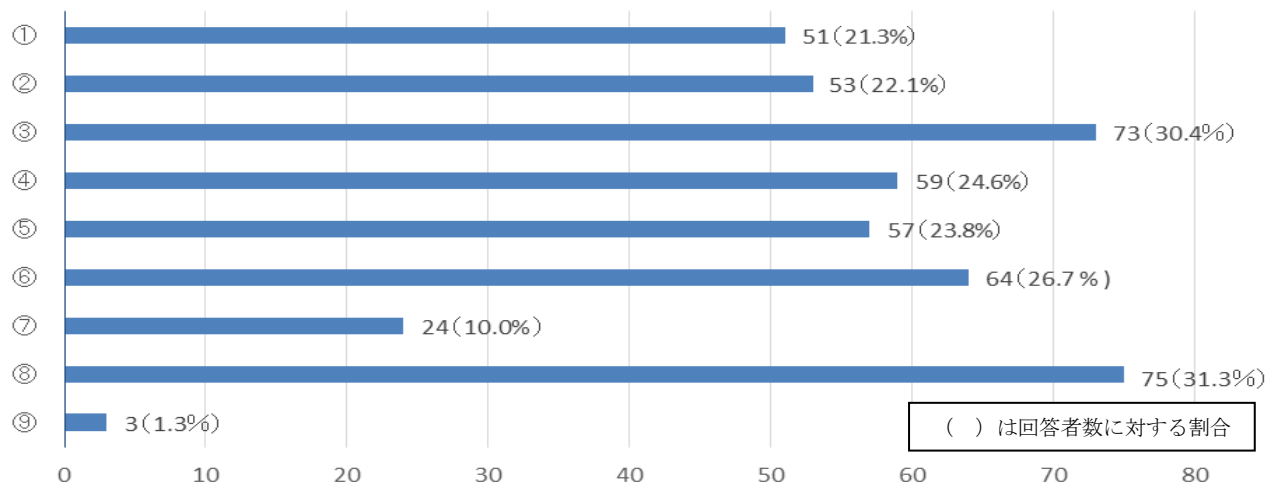
- ① 20人以下 ② 21～40人 ③ 41～80人 ④ 81～120人



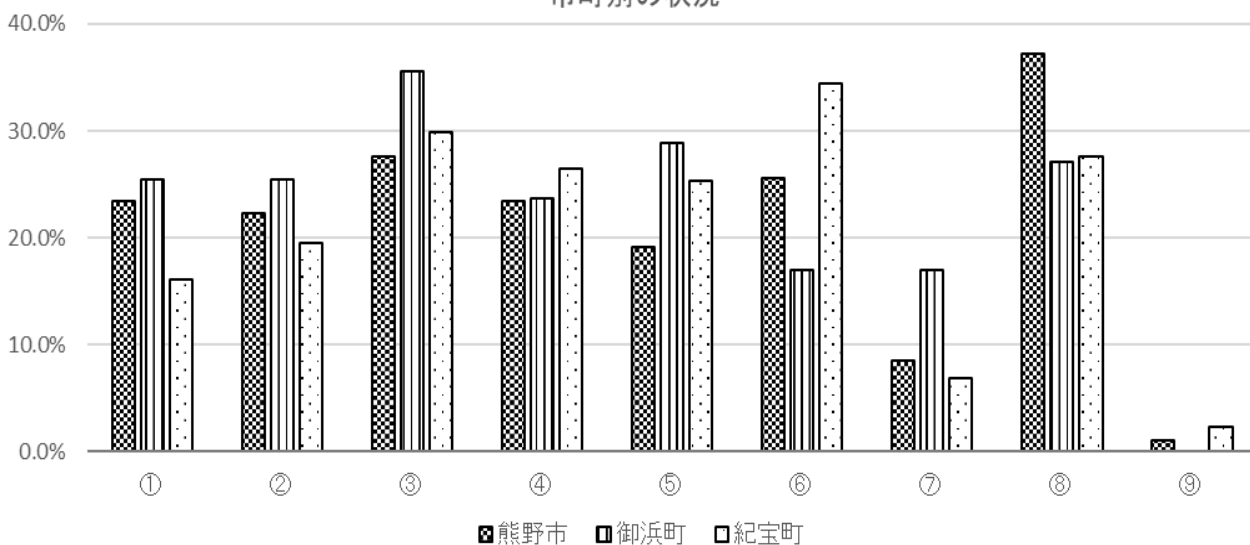
3 あなたが高校を選ぶとき、重視することは何ですか。2つ以内で選んでください。

- ① 大学進学につながる学力向上を目指した学習ができる
- ② 就職につながる専門的な知識や技能、資格が習得できる
- ③ 進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択することができる
- ④ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している
- ⑤ 入りたい部活動がある
- ⑥ 多くの友だちや先生と出会うことが期待できる
- ⑦ 一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が期待できる
- ⑧ 通学しやすい
- ⑨ その他（3-2の自由記述へ）

高校を選ぶときに重視すること(全体)



市町別の状況



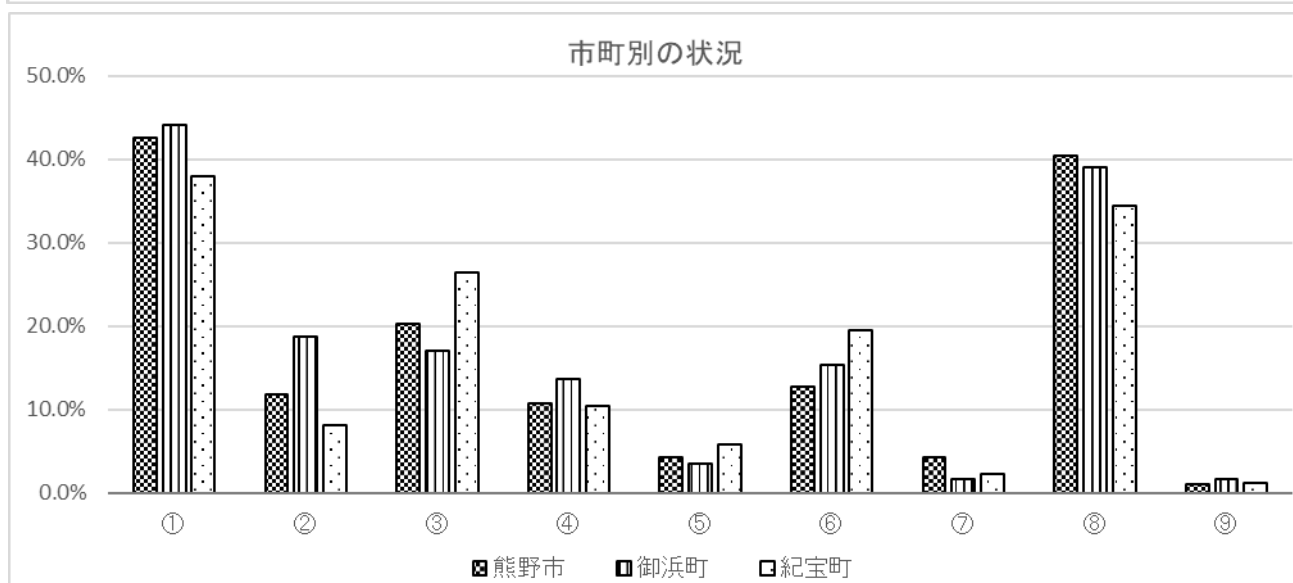
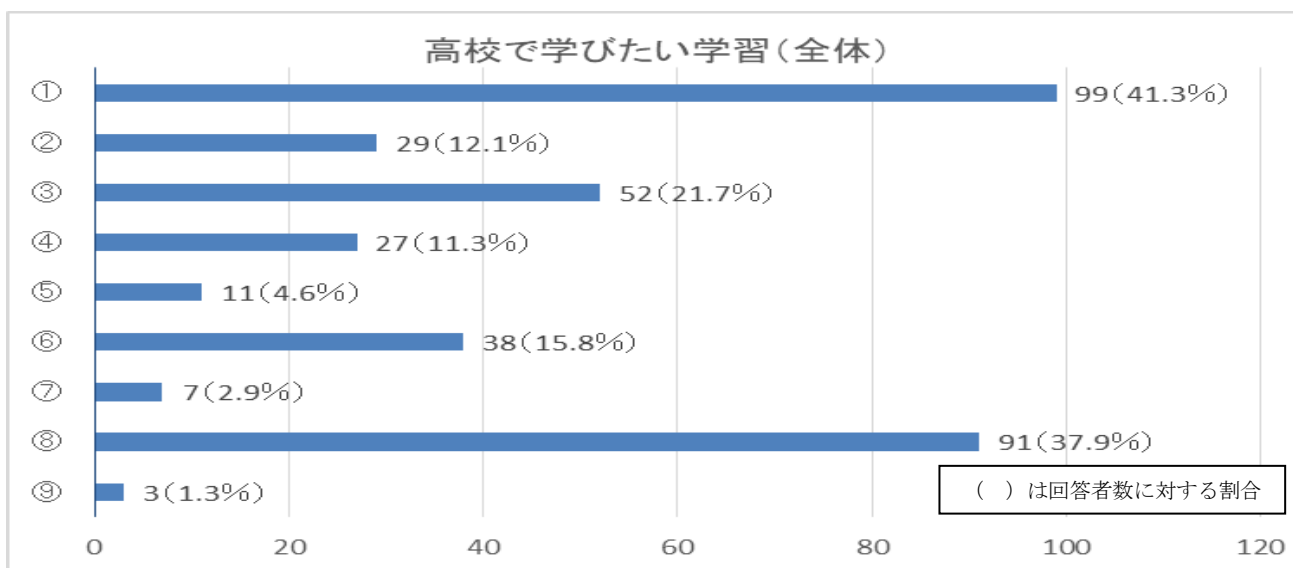
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
熊野市 (人)	22	21	26	22	18	24	8	35	1
熊野市回答者数に対する割合	23.4%	22.3%	27.7%	23.4%	19.1%	25.5%	8.5%	37.2%	1.1%
御浜町 (人)	15	15	21	14	17	10	10	16	0
御浜町回答者数に対する割合	25.4%	25.4%	35.6%	23.7%	28.8%	16.9%	16.9%	27.1%	0.0%
紀宝町 (人)	14	17	26	23	22	30	6	24	2
紀宝町回答者数に対する割合	16.1%	19.5%	29.9%	26.4%	25.3%	34.5%	6.9%	27.6%	2.3%

3-2 3で「⑨その他」を選んだ人は、重視する内容を書いてください。

・バイトができる ・楽しそう

4 高校には様々な学科や課程での授業があります。あなたが高校に進学するとしたら、どのような学習をしたいですか。次から2つ以内で選んでください。

- ① 国語・社会・数学・理科・英語など中学校で学習する内容を深める学習
- ② 音楽や美術など芸術についての学習
- ③ スポーツや保健体育についての学習
- ④ 商品の流通・販売、簿記などビジネスの基礎についての学習
- ⑤ 介護や福祉関係の職業につくための学習
- ⑥ 医療や看護関係の職業につくための学習
- ⑦ 地域の文化や産業等について学び、地域活性化を考える学習
- ⑧ わからない、まだ決まっていない
- ⑨ その他（4-2の自由記述へ）



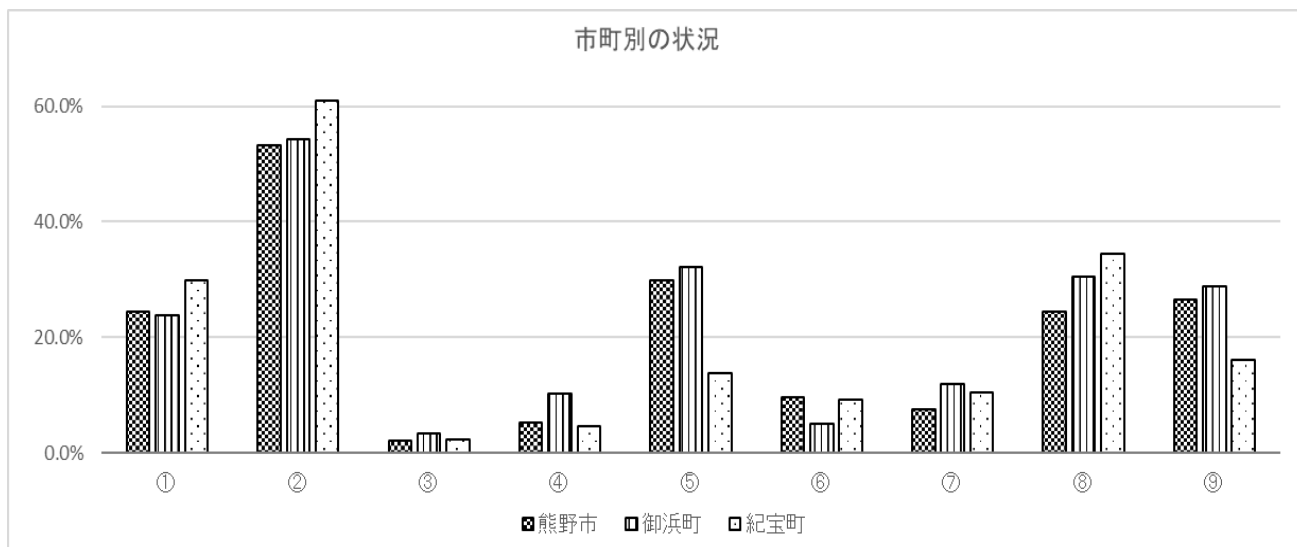
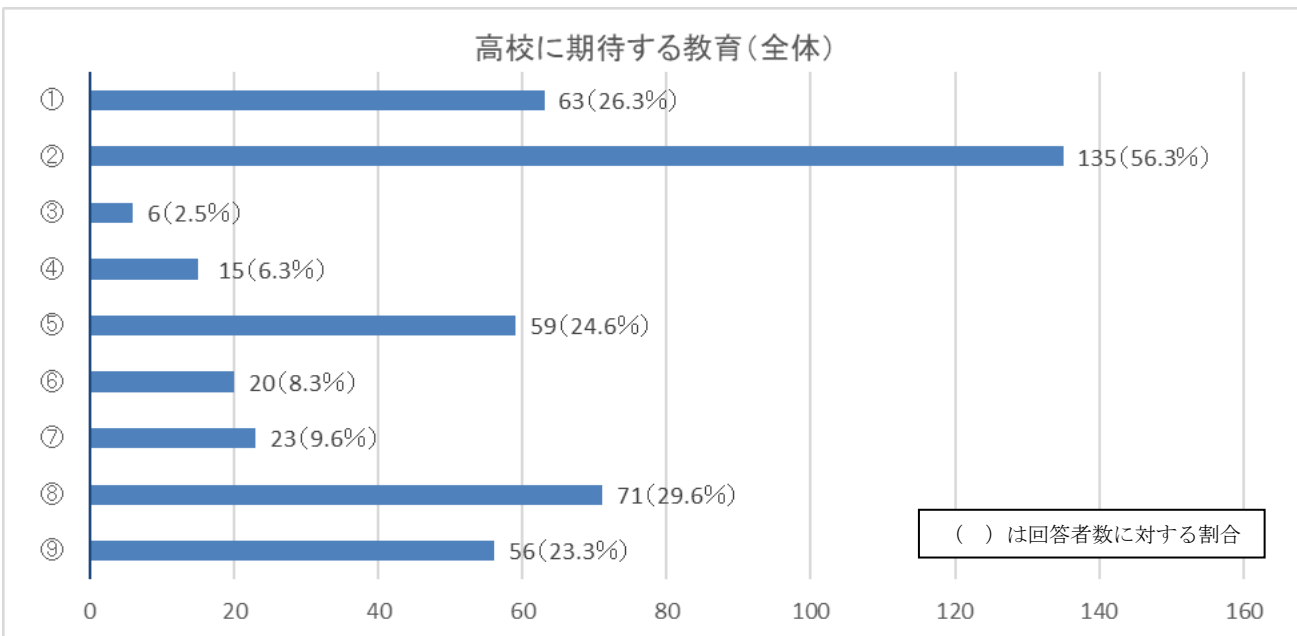
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
熊野市	40	11	19	10	4	12	4	38	1
熊野市回答者数に対する割合	42.6%	11.7%	20.2%	10.6%	4.3%	12.8%	4.3%	40.4%	1.1%
御浜町	26	11	10	8	2	9	1	23	1
御浜町回答者数に対する割合	44.1%	18.6%	16.9%	13.6%	3.4%	15.3%	1.7%	39.0%	1.7%
紀宝町	33	7	23	9	5	17	2	30	1
紀宝町回答者数に対する割合	37.9%	8.0%	26.4%	10.3%	5.7%	19.5%	2.3%	34.5%	1.1%

4-2 4で「⑨その他」を選んだ人は、学習したい内容を書いてください。

- ・俳優関係の職業につくための学習
- ・インターネットやプログラミングなどの学習
- ・ビデオやゲームを作る映像系の学習

5 あなたが入学する高校には、どのような教育を期待しますか。2つ以内で選んでください。

- ① 自ら学び続ける力を育てる教育
- ② 自分の将来を選択する力を育てる教育
- ③ 地域について学ぶ教育
- ④ 人権に対する意識を高める教育
- ⑤ 基本的な知識を身につける教育
- ⑥ ICTを積極的に活用する教育
- ⑦ 広く世界で活躍できる力を育てる教育
- ⑧ 社会性や協調性、コミュニケーション能力を育てる教育
- ⑨ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感を身につけることができる教育
- ⑩ その他（5-2の自由記述へ）



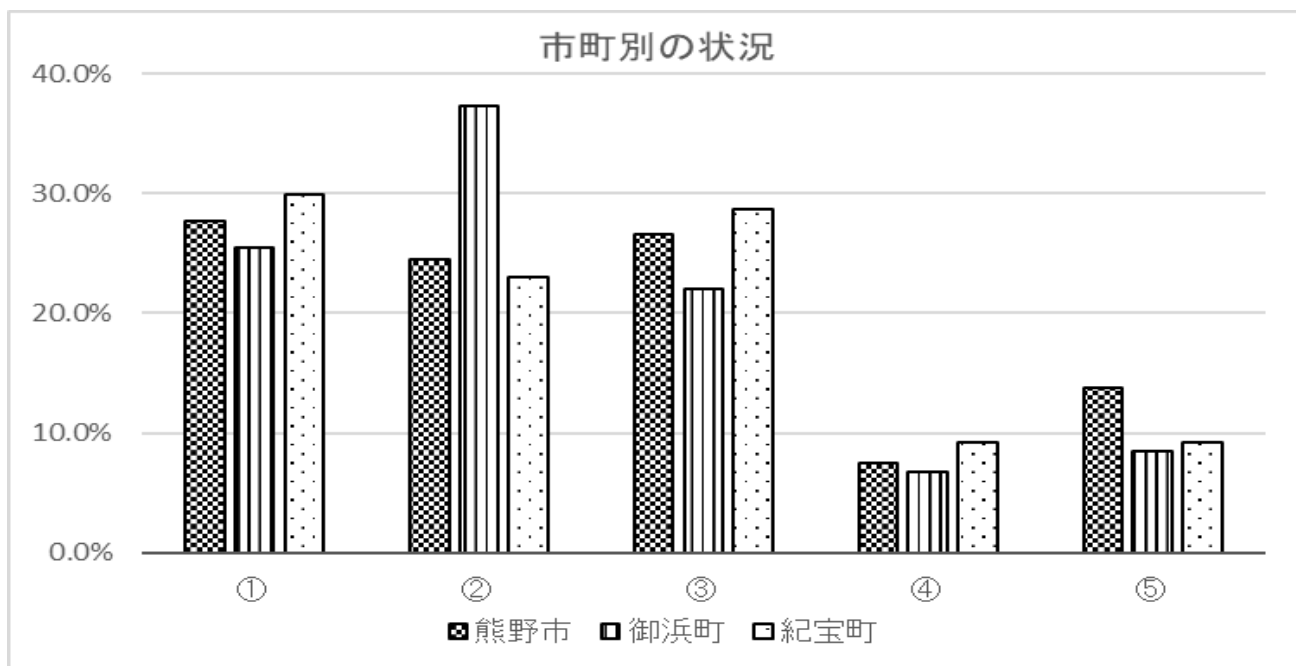
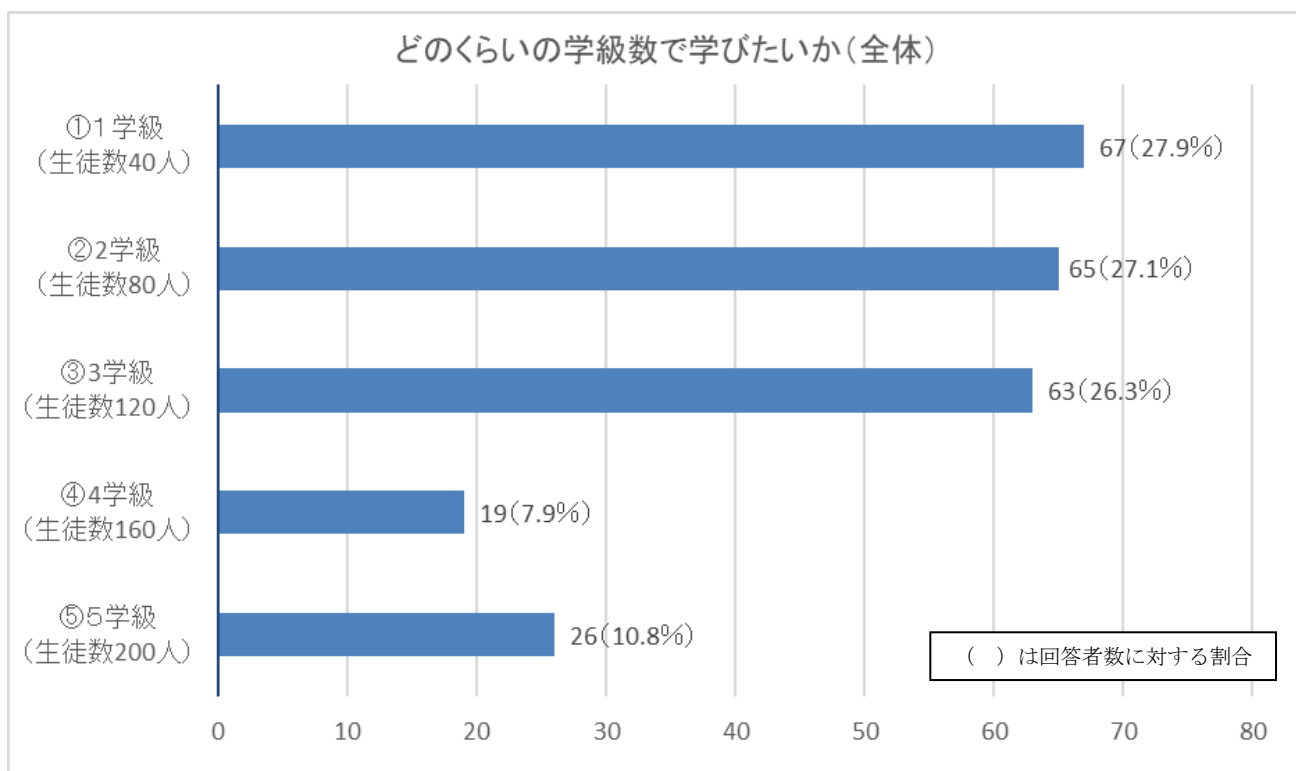
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
熊野市 (人)	23	50	2	5	28	9	7	23	25
熊野市回答者数に対する割合	24.5%	53.2%	2.1%	5.3%	29.8%	9.6%	7.4%	24.5%	26.6%
御浜町 (人)	14	32	2	6	19	3	7	18	17
御浜町回答者数に対する割合	23.7%	54.2%	3.4%	10.2%	32.2%	5.1%	11.9%	30.5%	28.8%
紀宝町 (人)	26	53	2	4	12	8	9	30	14
紀宝町回答者数に対する割合	29.9%	60.9%	2.3%	4.6%	13.8%	9.2%	10.3%	34.5%	16.1%

5-2 5で「⑩その他」を選んだ人は、期待する内容を書いてください。

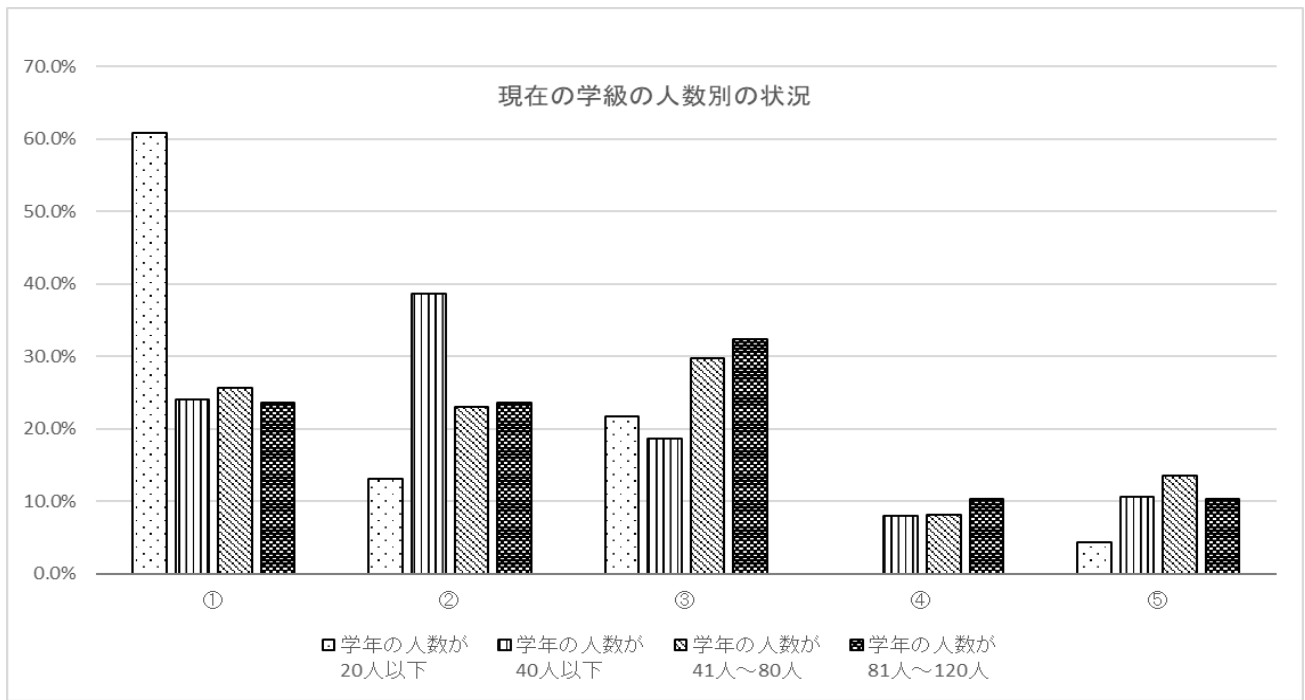
「⑩その他」の該当者なし

6 あなたは高校に行くとしたら、1学年あたりどのくらいの学級数の高校で学びたいですか。次からひとつ選んでください。

- ① 1学級 (生徒数 40人) ② 2学級 (生徒数 80人) ③ 3学級 (生徒数 120人)
 ④ 4学級 (生徒数 160人) ⑤ 5学級 (生徒数 200人)



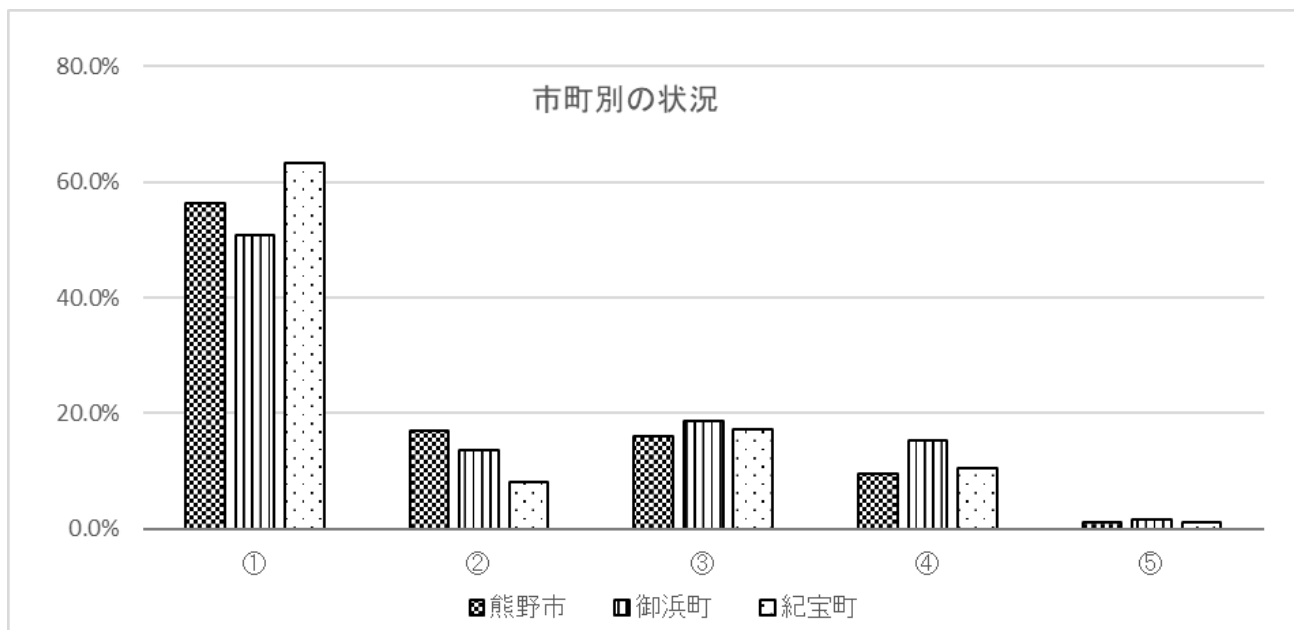
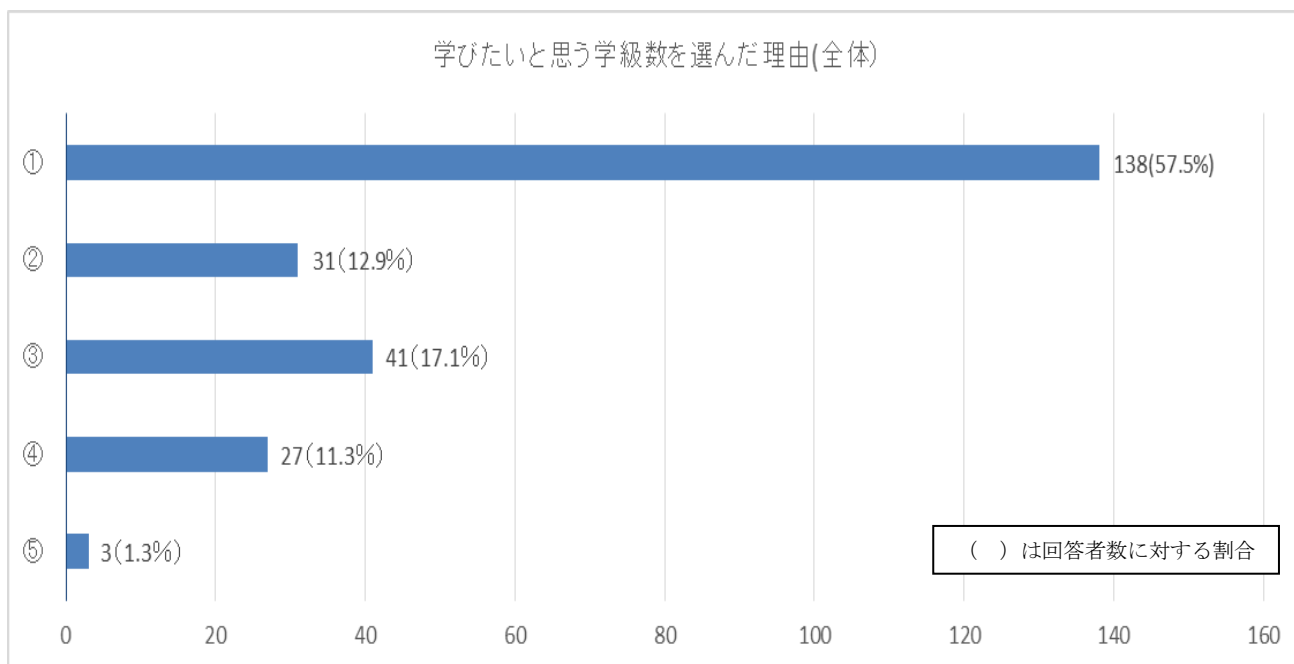
	① 1学級	② 2学級	③ 3学級	④ 4学級	⑤ 5学級
熊野市 (人)	26	23	25	7	13
熊野市回答者数に対する割合	27.7%	24.5%	26.6%	7.4%	13.8%
御浜町 (人)	15	22	13	4	5
御浜町回答者数に対する割合	25.4%	37.3%	22.0%	6.8%	8.5%
紀宝町 (人)	26	20	25	8	8
紀宝町回答者数に対する割合	29.9%	23.0%	28.7%	9.2%	9.2%



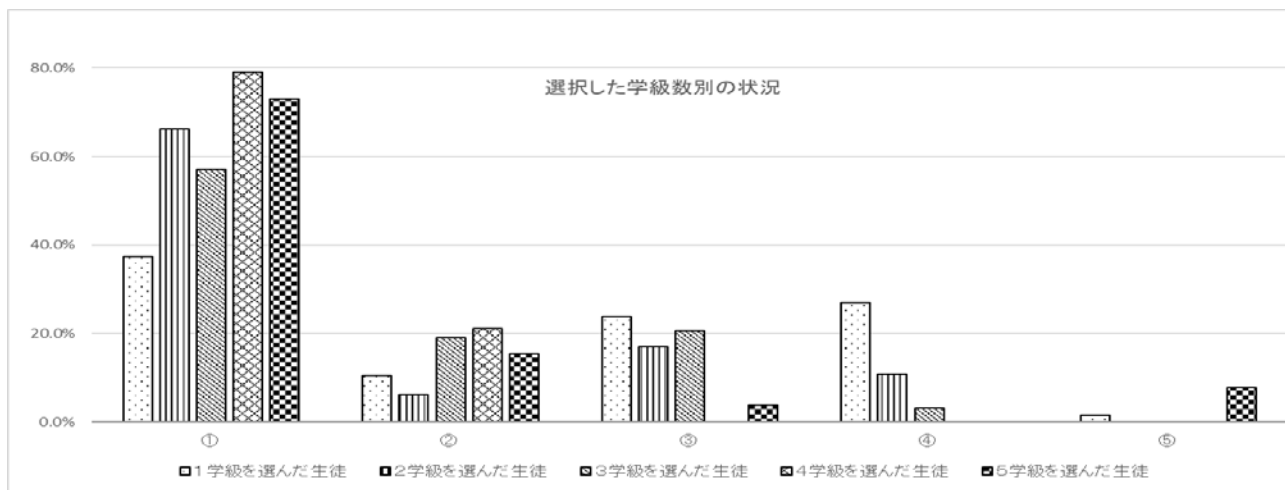
	①1学級	②2学級	③3学級	④4学級	⑤5学級
学年の人数が 20人以下	14 60.9%	3 13.0%	5 21.7%	0 0.0%	1 4.3%
学年の人数が 21人～40人	18 24.0%	29 38.7%	14 18.7%	6 8.0%	8 10.7%
学年の人数が 41人～80人	19 25.7%	17 23.0%	22 29.7%	6 8.1%	10 13.5%
学年の人数が 81人～120人	16 23.5%	16 23.5%	22 32.4%	7 10.3%	7 10.3%

6-2 6を選んだ理由で最もあてはまるものを、次からひとつ選んでください。

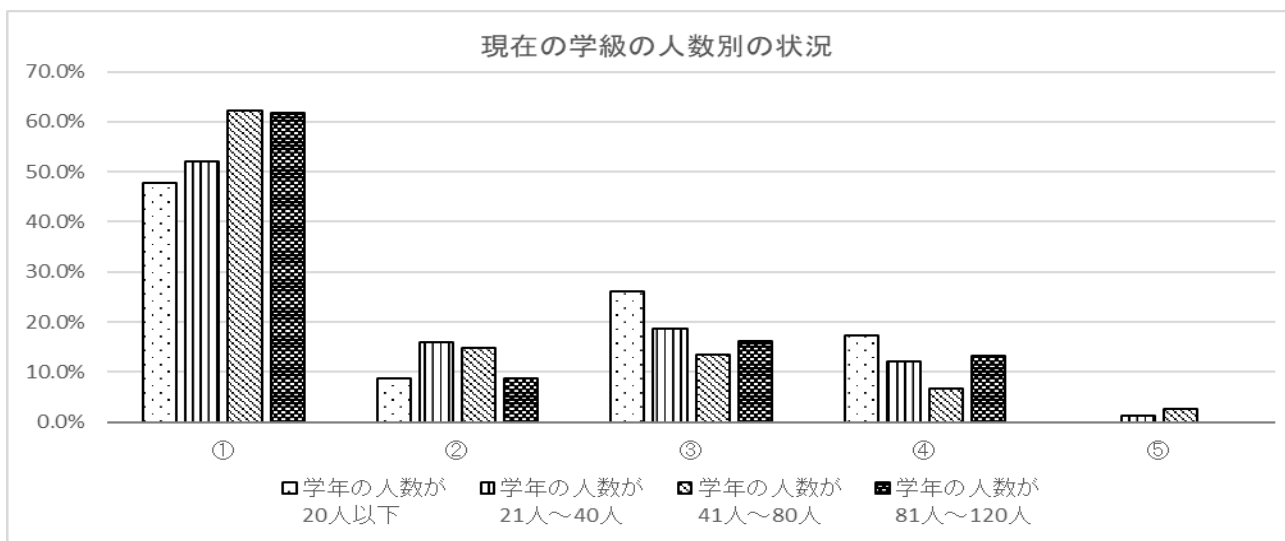
- ① 友だちや先輩、先生など、多くの出会いがあると思うから
- ② 学習や部活動等で自分の興味・関心にもとづく多様な選択ができると思うから
- ③ 友だちや先輩、先生との関係が深まりやすいと思うから
- ④ 学習や生活面で一人ひとりが先生にサポートしてもらいやすいと思うから
- ⑤ その他（6-3の自由記述へ）



	①多くの出会い	②多様な選択	③関係の深まり	④一人ひとりへのサポート	⑤その他
熊野市 (人)	53	16	15	9	1
熊野市回答者数に対する割合	56.4%	17.0%	16.0%	9.6%	1.1%
御浜町 (人)	30	8	11	9	1
御浜町回答者数に対する割合	50.8%	13.6%	18.6%	15.3%	1.7%
紀宝町 (人)	55	7	15	9	1
紀宝町回答者数に対する割合	63.2%	8.0%	17.2%	10.3%	1.1%



	①多くの出会い	②多様な選択	③関係の深まり	④一人ひとりへのサポート	⑤その他
1学級を選んだ生徒	25 37.3%	7 10.4%	16 23.9%	18 26.9%	1 1.5%
2学級を選んだ生徒	43 66.2%	4 6.2%	11 16.9%	7 10.8%	0 0.0%
3学級を選んだ生徒	36 57.1%	12 19.0%	13 20.6%	2 3.2%	0 0.0%
4学級を選んだ生徒	15 78.9%	4 21.1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
5学級を選んだ生徒	19 73.1%	4 15.4%	1 3.8%	0 0.0%	2 7.7%



	①多くの出会い	②多様な選択	③関係の深まり	④一人ひとりへのサポート	⑤その他
学年の人数が20人以下	11 47.8%	2 8.7%	6 26.1%	4 17.4%	0 0.0%
学年の人数が21人～40人	39 52.0%	12 16.0%	14 18.7%	9 12.0%	1 1.3%
学年の人数が41人～80人	46 62.2%	11 14.9%	10 13.5%	5 6.8%	2 2.7%
学年の人数が81人～120人	42 61.8%	6 8.8%	11 16.2%	9 13.2%	0 0.0%

6-3 6-2で「⑤その他」を選んだ人は、その理由を書いてください。

- (「⑤5学級」を選んだ生徒の理由)
- ・中学校までは人数が少なかったから
 - ・自分の将来の夢を学習できると思うから。
- (「①1学級」を選んだ生徒の理由)
- ・今の2年生の人数が40人くらいだから。

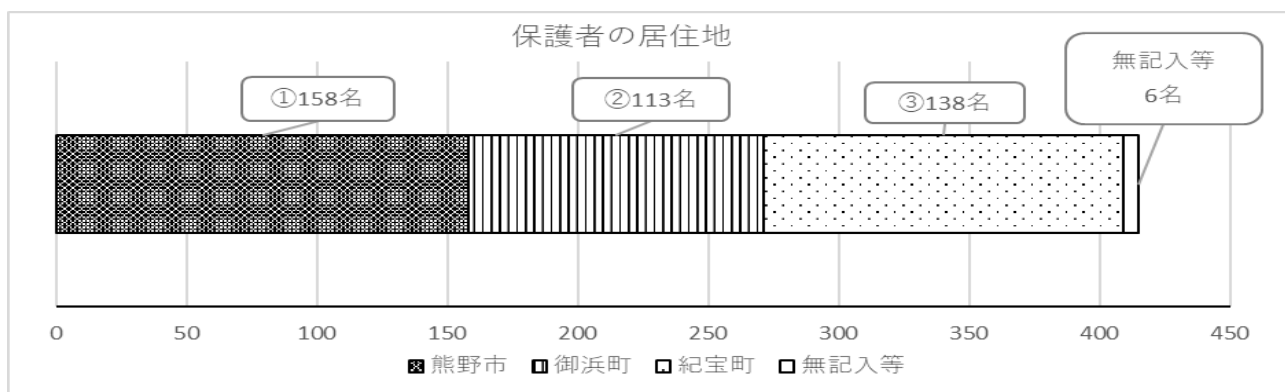
令和4年度 紀南地域の県立高校に関するアンケート結果（対象：保護者）

紀南地域高等学校活性化推進協議会

- 調査期間 : 令和4年9月中旬～10月14日（金）
- 調査対象 : 紀南地域の中学1、2年生全員の保護者 486人
（熊野市・御浜町・紀宝町）
- 調査形態 : 紙媒体でのアンケート
- 回答者数 : 415人（回収率85.4%）

現在の居住地はどこですか。

- ① 熊野市 ② 御浜町 ③ 紀宝町

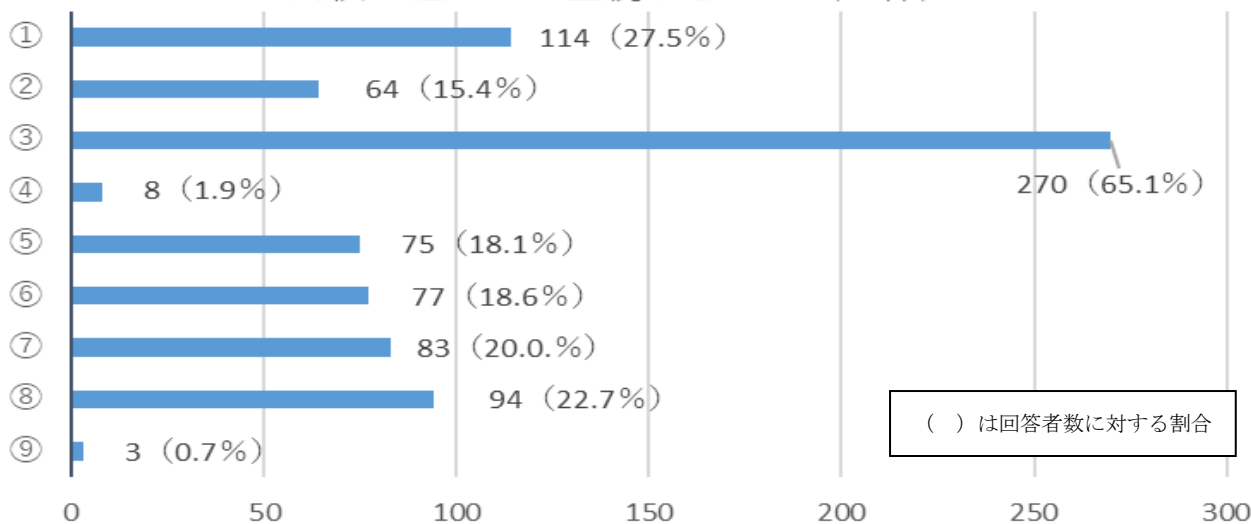


各設問の「市町別の状況」において、無記入等の6名は所属中学校が所在する市町に分類
※熊野市（162人）、御浜町（114人）、紀宝町（139人）

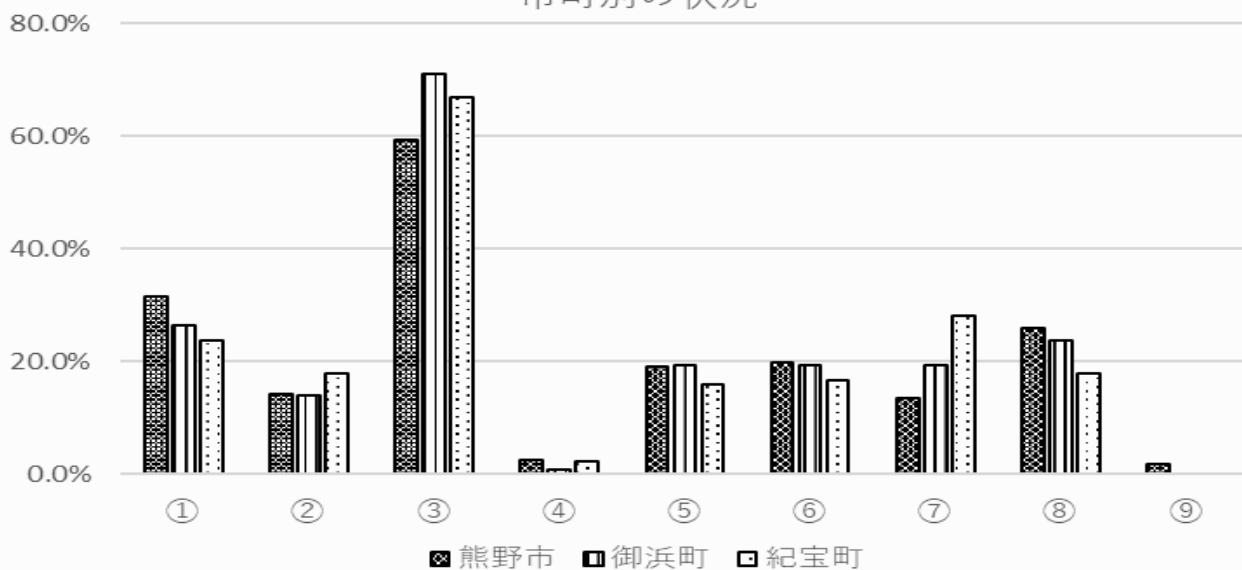
1 お子さんが高校を選ぶとき、重視することは何ですか。2つ以内で選んでください。

- ① 大学進学につながる学力向上を目指した学習ができる
- ② 就職につながる専門的な知識や技能、資格が習得できる
- ③ 進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択することができる
- ④ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している
- ⑤ 入りたい部活動がある
- ⑥ 多くの友だちや先生と出会うことが期待できる
- ⑦ 一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が期待できる
- ⑧ 通学しやすい
- ⑨ その他 ()

高校を選ぶとき重視すること（全体）



市町別の状況



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
熊野市 (人)	51	23	96	4	31	32	22	42	3
熊野市回答者数に対する割合	31.5%	14.2%	59.3%	2.5%	19.1%	19.8%	13.6%	25.9%	1.9%
御浜町 (人)	30	16	81	1	22	22	22	27	0
御浜町回答者数に対する割合	26.3%	14.0%	71.1%	0.9%	19.3%	19.3%	19.3%	23.7%	0.0%
紀宝町 (人)	33	25	93	3	22	23	39	25	0
紀宝町回答者数に対する割合	23.7%	18.0%	66.9%	2.2%	15.8%	16.5%	28.1%	18.0%	0.0%

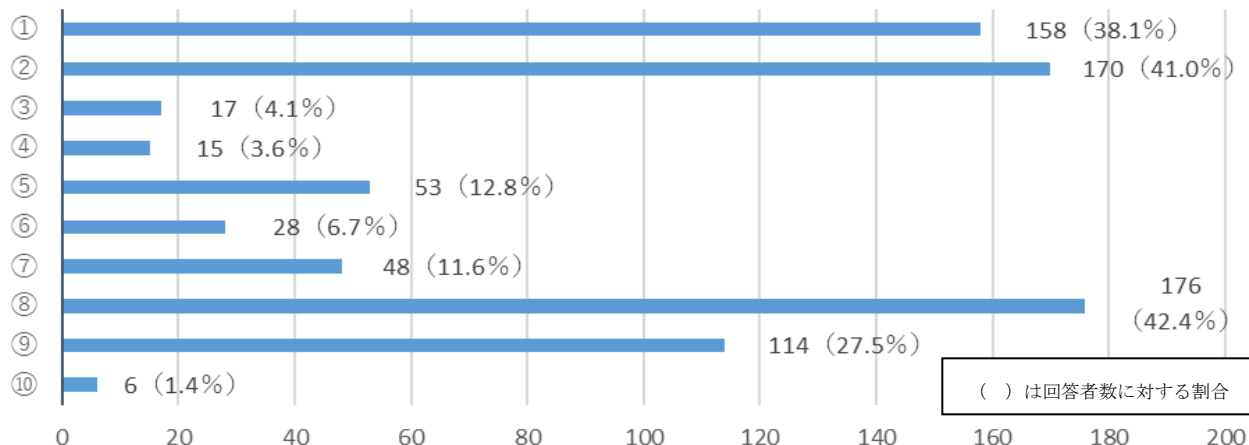
「⑨その他」の記述内容

- ・子どもが行きたい学校を選ぶ
- ・全体的な質をみる
- ・①～⑨すべてを重視

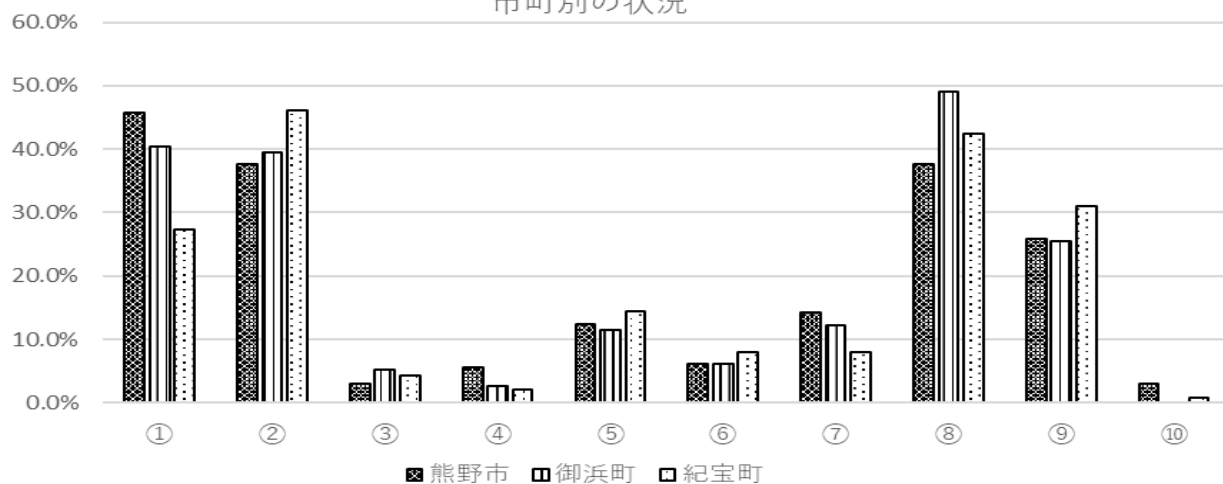
2 お子さんが入学する高校には、どのような教育を期待しますか。2つ以内で選んでください。

- ① 主体的に学び続ける力を育む教育
- ② 進路選択の力を育む教育
- ③ 地域と協働しながら課題解決力を育む教育
- ④ 人権意識を高める教育
- ⑤ 学び直しや基本的な知識の習得ができる教育
- ⑥ ICTを積極的に活用した教育
- ⑦ グローバル社会で活躍できる力を育む教育
- ⑧ 社会性や協調性、コミュニケーション能力を育む教育
- ⑨ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感を身につけることができる教育
- ⑩ その他 ()

高校にどのような教育を期待するか (全体)



市町別の状況



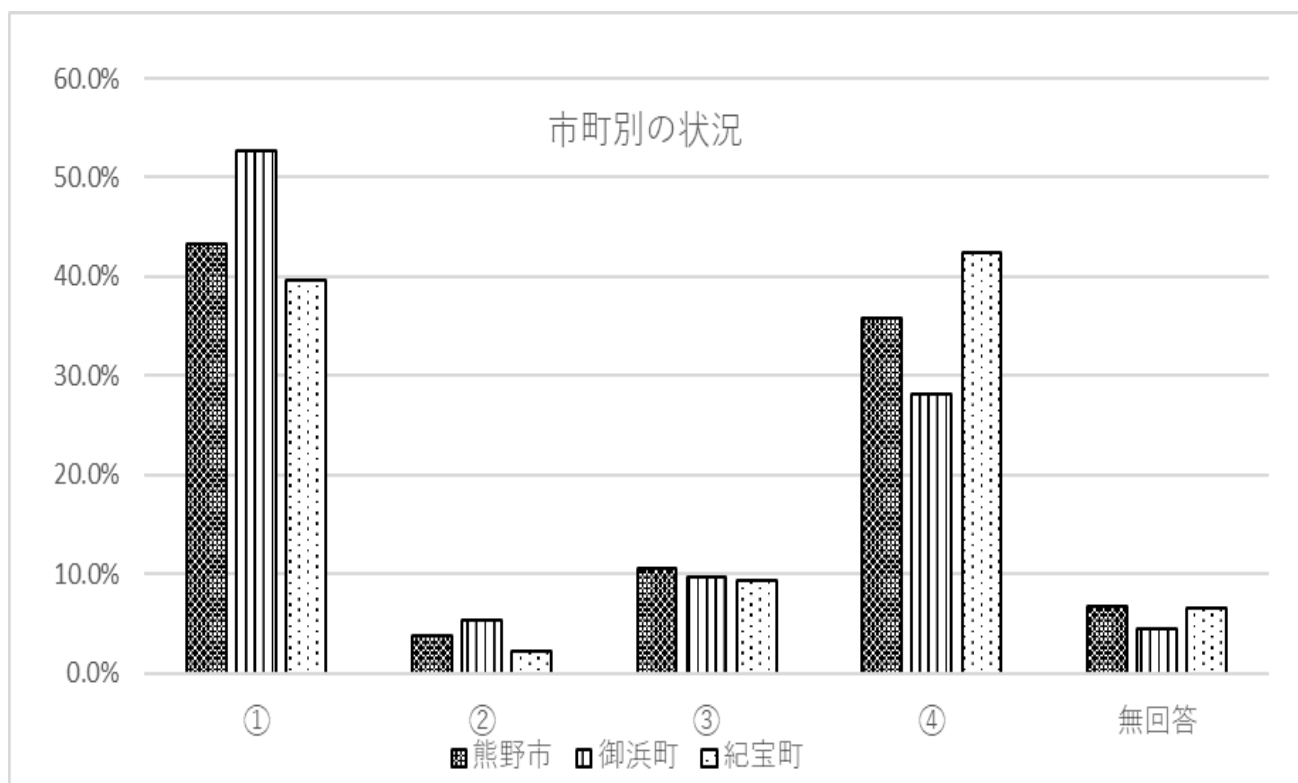
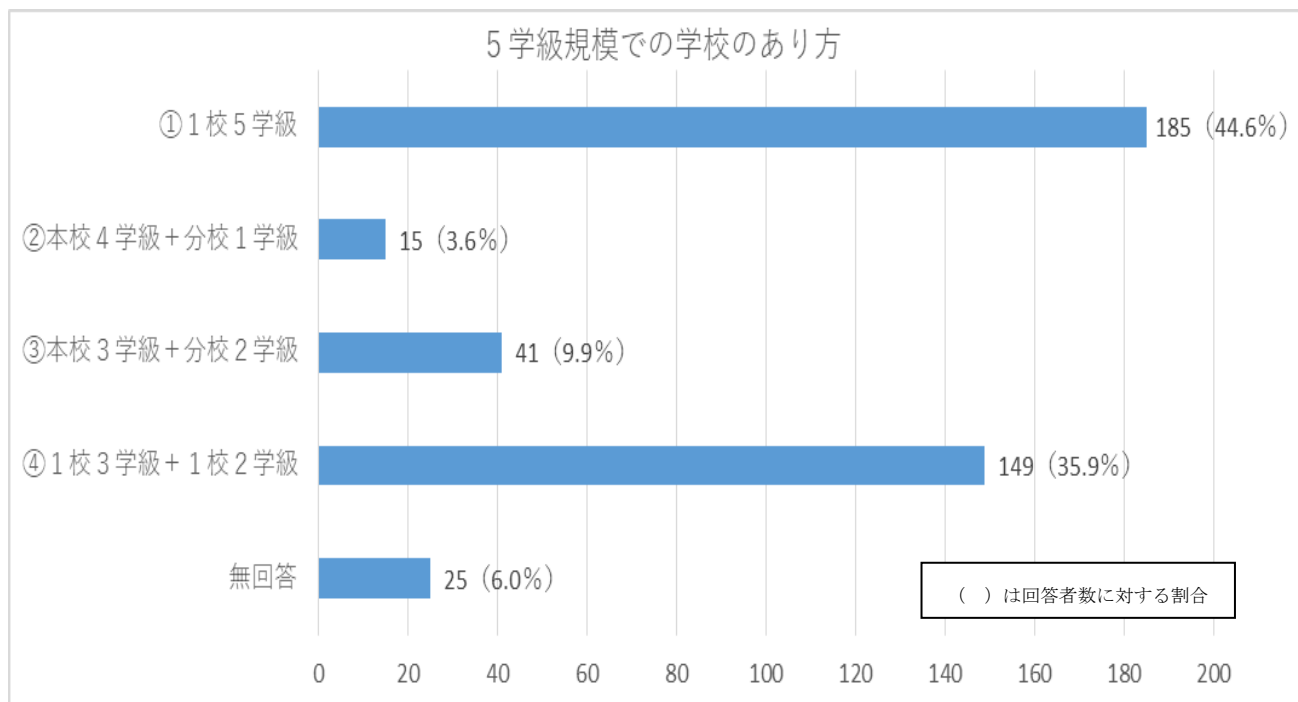
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
熊野市 (人)	74	61	5	9	20	10	23	61	42	5
熊野市回答者数に対する割合	45.7%	37.7%	3.1%	5.6%	12.3%	6.2%	14.2%	37.7%	25.9%	3.1%
御浜町 (人)	46	45	6	3	13	7	14	56	29	0
御浜町回答者数に対する割合	40.4%	39.5%	5.3%	2.6%	11.4%	6.1%	12.3%	49.1%	25.4%	0%
紀宝町 (人)	38	64	6	3	20	11	11	59	43	1
紀宝町回答者数に対する割合	27.3%	46.0%	4.3%	2.2%	14.4%	7.9%	7.9%	42.4%	30.9%	0.7%

「⑩その他」の記述内容

- ・進路希望に沿った専門的な教育
- ・やりたいことが学べる環境
- ・部活動を通じて団体生活、思いやり、人への気配り、目配り、心配りができる人間性を教育できる学校生活に期待する
- ・皆違うので、個人の良いところ悪いところをわかってあげて能力を伸ばす教育
- ・大学進学に向けてしっかり受験対策をしてくれる
- ・施工に関する教育
- ・①～⑨のすべてを期待

3-1 令和7年度に地域の全日制高校1年生の総学級数が現在の6学級から5学級になると見込まれています。あなたの意見は以下のどれに近いですか。

- ① 2校を統合した学校で学ぶ（1校5学級）
- ② 2校を統合して1校を分校とし、2つの校舎で学ぶ（本校4学級+分校1学級）
- ③ 2校を統合して1校を分校とし、2つの校舎で学ぶ（本校3学級+分校2学級）
- ④ 統合せずに、それぞれの学校で学ぶ（1校3学級+1校2学級）



	① 1校5学級	② 本校4学級+分校1学級	③ 本校3学級+分校2学級	④ 1校3学級+1校2学級	無回答
熊野市 (人)	70	6	17	58	11
熊野市回答者数に対する割合	43.2%	3.7%	10.5%	35.8%	6.8%
御浜町 (人)	60	6	11	32	5
御浜町回答者数に対する割合	52.6%	5.3%	9.6%	28.1%	4.4%
紀宝町 (人)	55	3	13	59	9
紀宝町回答者数に対する割合	39.6%	2.2%	9.4%	42.4%	6.5%

3-2 選んだ理由を記入してください。

①1校5学級を選んだ理由（185名のうち、149名回答）

【熊野市】

（生徒減少の状況から）

- ・生徒が少なくなっているのので2つの校舎に分ける必要はないと思う。部活動等も強くなると思う
- ・子どもの減少は更に進むので今のうちに統合した方がよいと思う
- ・人数が少なくなってきたので1校になってもよいのではないかと考える
- ・1校の方が生徒が多くてよいと思った
- ・今より更に少子化が進むことを考えると早いうちに1校にした方が今後どうなるのかと気にしないで進路選択できる。コストもよい。ある程度人数のいる学校で学ばせたい
- ・生徒数が少ないことで制約される活動がなくなる
- ・少子化・教員不足を考えても、校舎等の耐久性や維持費を考えても統合でよいと思う。多くの友達と出会い活動していくこともよいと思う。先生方も資格を持った方をお願いしたい
- ・10年・20年後子どもの数が減り続ける。1つの高校になるなら絶対に早い方がよい。行く高校によって部活を断念する子もいる。1つの高校で勉強が得意な子、運動が得意な子等それぞれの特性に応じてコース分けをしてほしい
- ・児童数が少なくなっているの
- ・子どもの数の減少は日本全国どこでもいっしょなので学校が減っていくのは仕方がないと思う
- ・少子化によりいつかは統合しなくてはならない
- ・子どもの人数が減ってきているのでまとめてしまった方がよいと思う
- ・統合しなければ1校当たりの教員数が減る。学校の機能が低下するのではないかと。教員数を確保できれば別だが。進学して新たな出会いも減ることになる
- ・中学校卒業者の減少を踏まえると地震防災対策が万全の校舎で学ぶことが望まれる

（多くの出会いを重視）

- ・多様性が重視される時代を生きる子供たちにとって4択のうち一番多様に触れられそうだった
- ・多様な意見や交流に触れるため。
- ・人数が多い方がいろいろな人と関わることができる
- ・生徒が多い方がいろいろなことができることが多い
- ・多くの子供たちに多くの友達を作してほしい
- ・多くの友達に出会える。選択の幅も広がる
- ・進学・就職・部活動が活発となる。多くの生徒と生活することで人間性も豊かになる
- ・多数の生徒と学ぶことができる
- ・小中学校では少人数で学んできたので社会に出る前の段階を踏む意味で少しでも多い人数で活動・人生経験をしてほしい。学校が小さいから・人数が少ないから・田舎だからとマイナス面ばかりで考えるのではなく発想の転換・逆転を大人も子供もできるように大人がしっかり考えて提示し続けなくてはならない
- ・たくさんのひとがいる学校で学ばせたい
- ・少人数の学校なので高校ではたくさんの人に出会ってほしい
- ・多くの人とともに学校生活を送ることは子供の生涯を考えるとよいと思う
- ・高校進学して知り合える友達が少ないのはあまりにもかわいそうである
- ・人数は多い方がよいと思う

（進学・就職対応の充実）

- ・大学進学に対応したカリキュラムを設置してほしい。①でない場合は特に地歴公民と理科の専門性を備えた教員の配置が困難ではないかと思う
- ・選択科目を多く開設できる点が良い
- ・進学や就職に向けた多様な進路希望に幅広く対応できる
- ・まとまった人数になることで進路も幅広く対応してもらえるし、部活動や学校行事が活発になることも期待でき、学校生活がより充実したものとなりそうだから
- ・進路を考えるにあたり、選択科目の縮小やこれまでできた部活動ができなくなる等限られた環境での学校生活は好ましくない
- ・進学や就職に向けた多様な進路希望にも幅広く対応できること。希望している子供たちが全員入学できるようであってほしい
- ・選択科目が増えることで進路希望の幅が広がる
- ・進学・就職に向けた多様な進路希望に幅広く対応できるというところに期待する
- ・選択科目をより多く開設できて総合学科の系列を増やすことにより、進学や就職に向けて多様に対応できる
- ・総合学科の系列を増やす必要はないと思うが教員が減少し目の行き届かない指導になるなら1校5学級で進路を考えるとき困らない状況であってほしい

(部活動・学校行事の充実)

- ・部活動や交流の幅・学校行事の多様化等の選択肢を広げるため
- ・部活動の選択肢を増やし学生生活の充実を図るため
- ・生徒数が増えることにより部活動に参加する生徒が増え部活動が活発になる
- ・学生生活における部活動・学校行事が多くできる可能性がある
- ・人数が減っているので学校も1校でいいのではないかと思う。教員の無駄でもあると思う。部活動等の人数も少なくなるのでまとまっている方が活動の幅が広がるのではないかと思う
- ・生徒数の減少で廃部になっている部活動がある中学校もある。統合して人数が確保できればよい。総合学科や普通科が増えれば中学時代の友人と一緒に部活動ができるのでよいと思う
- ・部活動等考えると統合して1校で学ぶ方がいいと思う
- ・学校行事や部活動はある程度の人数が必要だと思う
- ・部活動の人数が確保できて、競争意識をもってレベルアップできる。多くの同級生や先輩後輩と出会うことができて人としての幅を拡げられる(2学級では中学校と変わらない)行事の活性化と地域の活性化にもつながる
- ・部活動や学校行事がより活発になってほしい
- ・人数が多い方が学習や部活動など行事が活性する

(その他)

- ・名前は本本高校がよい。学力では今の本本高校への進学が不安なため
- ・同じ学校生だと思えるから
- ・学校は近い方がよい
- ・中学校の友達と同じ高校に通わせたい
- ・新しい学校で新たな学びを期待している
- ・分校はクラスが少なく規模が小さくなるので出来ることに大きく差が出てしまう。交通費は同じ学校内でも海岸部と山間部で大きく違う。統合だけの問題ではないと思う
- ・通学の点で生徒たちは東紀州地域全域で通学しているので大差ないと思う。1校にして教員を多めに適材適所に配置してほしい
- ・資料2の①の説明通り
- ・資料にあるメリットが得られるため。2校ともに浸水災害が起きているため安全な場所への移転に向けての統合でもよいのではと考える
- ・本校と分校に分けた場合どのように分けるのか具体的に分からなかった

【御浜町】

(生徒減少の状況から)

- ・学校の存続より子供たちの活動が制限される方が問題があると思う
- ・2校持続がいいが生徒数を考えると仕方がない
- ・地域や卒業生の思いは理解できるが、全国的に子供の人数等に応じての統合が一番合理的、経費削減等になる。統合しても少人数にてあえて建物を2つにすることはないと思う
- ・学級数が減少していくのに2校以上の校舎で学ぶ機会を継続するのは難しいのではないか。問題を先送りにするのみで数年ごとに同じ議論をくり返すのではないか
- ・2校で学ぶのはどのみち10年以内に統合の話が必ず出てくるため
- ・20年前の半分の生徒数で統合せずにはいられないのではないか
- ・子供の人数が減っているのに両校舎を維持する必要はない
- ・これからどんどん子供が減るのに2校も必要ない
- ・生徒数が減少していくなかの統合は普通の考えだと思う。資料2①の学びの在り方を期待する

(多くの出会いを重視)

- ・学級が少ないことにより出会いが減ってしまう。部活動等の人数が確保しやすい
- ・子どもの数は増えないのでいずれは1校になってしまう。高校ではたくさんの人と出会いいろいろな経験をしてほしい
- ・1校で人数が多い方がいろいろと学べる
- ・人数が少ないから
- ・統合しても通学できる範囲であれば分校の必要性はないと考えた。多くの生徒同士で学びあってほしい
- ・統合して多くの生徒がいる中で学んでほしい
- ・同級生が多い方がよい
- ・多くの学生と触れ合うことができる
- ・人数の多い同級生との関係性を学んでほしい
- ・生徒数が多い方が多種多様な考えに触れる機会が増え個々の視野が広がり人間として成長できると考えるため
- ・小中は少人数でも良いと思うが、社会に直結しているとも言える高校では、ある程度の人数での生活、その中での達成感を味わうのが必要だと思う
- ・分校だと分校側の友達や先生と関わることができなくなる。人数が減っている中での統合ならなおさらであ

る。入りたい続けたい部活も少なくなって、他の学校へ子供たちが出て行ってしまい、地元にいる子供がますます少なくなる

(進学・就職対策の充実)

- ・1校にするのは簡単ではないが将来的には1校にする方がよい。普通科と総合学科をしっかり分けて専門的に学ばせる。進路に関しても進学・就職の数も増やすことができ選択肢も増える。部活動もふやすことができる。子供たちにやりたいことをやらせることができる
- ・生徒が目的意識を持って学習することや一人ひとりのきめ細やかな指導ができるよう総合学科の系列を増やすことや普通科のコースを設置すること、学校の中に多様な学びの選択肢をつくる工夫が必要である
- ・資料2の「進学や就職に向けた多様な進路希望にも幅広く対応できる」とありいろいろ悩むところだが統合を選択した
- ・進学や就職に向けた多様な進路希望に対応できること。部活動や学校行事が活発になること
人数が多い環境で学んでほしい
- ・教員数を確保し、選択科目を多く開設することで一人ひとりの生徒のニーズに応じた教育・進路選択ができるため
- ・人数が増えることでいろいろな選択肢ができるから(部活動・進学・就職の面で)
- ・統合することにより人数が増え進学や就職に対し幅広く対応してもらえそう
- ・教員数が減少することなく大学進学に対応する選択科目をより多く開設し、進学に向けた学習環境を提供してほしいと考えるため
- ・統合せず小規模な学校となると大学進学に対応する選択科目の開設等の縮小が考えられるとのことだったのでそれは困ると思う。統合した学校で学ぶと進学や就職に向けた多様な進路希望にも幅広く対応できるという点に魅力を感じた

(部活動・学校行事の充実)

- ・部活動等人数が少なく廃部になっているので子どもたちがやりたいことができているため
- ・学びや部活動の選択肢が増えると思う
- ・部活動等考えると1校で人数がいるほうがよい。本校・分校に分けることは統合しないのと変わらないのではと思う
- ・部活動や学校行事は人数が多い方が栄えていくと思う
- ・部活動や学校行事が活動しやすい。教員数も確保できて選択科目の幅が広がる
- ・人数が多い方が行事等が活発に行える
- ・部活動や学校行事が活発にできる。多様な価値観に触れられる
- ・部活動をはじめ多くの面で少人数ではできない教育環境を実現できるものを思う。また多くの学友や先生方と触れ合うことで成長期のかげがえのない経験になると思います
- ・1校になれば人数も増え、部活動の単独チームが作れる。学力はレベルに応じてクラス分けをすればよい。
- ・生徒数が増えるので部活動や学校行事が活発になる
- ・先生と生徒を1校に集中させ人数が多い方が勉強・学校行事が充実する。地域の方々からの協力も得やすい
- ・部活動の人数確保。多様な進路希望に対応してもらえることが期待される

(その他)

- ・分校や統合しないことは税金の無駄遣いだと思う
- ・統合して分校になるなら今までとあまり変わらない
- ・2校舎にするメリット(学習・部活動・行事等)があまりない。通学の負担については現在も通学している学生がいるので仕方ないと思う
- ・分校の場合、分校と普通科をどちらに持っていかでいさかかが起こる。いっそのこと1校舎で学ぶのがよい。南牟婁郡を中心とした和歌山県への流出も覚悟しなくてはならない
- ・資料2の①のメリットとおおり
- ・教員の人員体制、教育体制の効率化を図り、質の高いきめ細やかな教育を提供していくべきだと考える
- ・「もうええやん」の一言である。何もしてこなかったのだから子供が減って当然である。今更アンケートしても何も変わらない
- ・通学の遠近の課題はあるが少子化なので仕方ない。部活動においても活気が出るのではないかと

【紀宝町】

(生徒減少の状況から)

- ・本校と分校に分けるのなら今のままでよい。今後の生徒の減少により1校で学ぶのがよいと思う
- ・生徒数はこれからも増加の見込みが期待できない。部活動も年々減っている。統合すれば活発になり可能性が広がる。勉学の面でもいろいろな社会性・人間性の面でも広がり、プラスになると思う。生徒によっては通学に時間と費用がかかるのがマイナスの面である
- ・いつかは統合しないといけないので早い方がいいと思う
- ・子どもの数が減っていつかは統合しないと学習環境に影響が出ると思っている。メリットとデメリットがある中で長い目で見れば2校統合が学習環境にいいと思ったが通学費の補助がなければ厳しくなる

- ・複雑化しないシンプルな統合をした方がよい。少子化なので2校も必要なく統合に賛成する
友だちが多い方がよい。部活動の種類も多くなる。各部活の人数も増える
- ・統合の方が先生たちも1つの学校で済む。分けると自分の希望により学校が近くなったり遠くなったりする。
1校だとそこだけという意識でよい
- ・まとめればよい

(多くの出会いを重視)

- ・人数が少ないと交流が限られる。いろいろな人と関わってほしい。人数が少なくても部活等が少なくなるような気がする
- ・人数が多くなってその中でいろいろなことを学んでほしい
- ・多くの同級生・先輩後輩と学校生活を送ってほしい
- ・人数が少ない。多くの友達と出会ってほしい
- ・1校で大人数で学ぶ方がよい
- ・人との出会い
- ・本当は統合しないことが理想であるが2・3学級は少なすぎる。人数が多い方が勉強でも部活動でも充実できると思う。少しでも多くの人数の中で刺激しあい、多くの先生の指導を受けられることが子供のためになると思う
- ・多くの友人と出会えるように
- ・進学先の高校の偏見をなくし、同じ高校でそれぞれの学びをしてもらいたい。友達と離れることもなく精神的な安定も図れる。生徒もいろいろなタイプがあるが教師にもあるため多くの教師の中で人として学び勉強や人権を学んでほしい
- ・高校生活は大事であるのでなるべくたくさん友達と関わった方がいいと思う。統合しなかったり分校にする
とやりたい勉強や部活ができないため

(進学・就職対策の充実)

- ・選択科目を多く開設してもらおうと将来への視野が広がると思う
- ・選択科目が多い方が学びたいことや知りたいことが勉強できてよいと思う。生きていくうえで選択することは大事である。人数が増えればやりたい部活動ができる。小学生から続けているスポーツが中学校でその部活がなかったりすることが少し悲しいと思っていた
- ・進路の選択肢が広がる
- ・進路希望に幅広く対応できるのはいい。部活や学校行事が活発になるのは楽しい学校生活が送れそうである
- ・進路希望に選択肢があり幅広く対応できる環境が望ましい
- ・統合すれば進路等幅広く対応してもらえる。子供たちが自分に合った進学や就職が選べるような学校になってほしい
- ・基礎クラスと進学クラスのように成績や進路によってクラスを分けるのがよいのではないかと

(部活動・学校行事の充実)

- ・人数が少ないといろいろな活動や部活動等が維持できなくなりそう。校舎が別々より1つの校舎で一緒の方がよい気がする
- ・部活動への不公平をなくすため。分校を作ると不公平を生徒が感じてしまうのではないかと。なるべくなら現状を期待したい
- ・まとまった人数の方が部活動や学校行事が盛り上がる。通学についてはこの地域に住んでいる限り仕方がない
- ・部活が廃部になったり単独チームでできなかつたりという現状をどうにかしてあげたい。少人数できめ細やかな指導は良いと思う。進路の選択肢が少なくなるとは社会に出ることによいとは思えない
- ・学校行事や部活動がより活発になる可能性に期待したい
- ・生徒数が少なく部活等の選択肢が限られている
- ・生徒数は親の世代からすると半分以下である。部活の数も減っている。団体競技がしたい子は自宅から離れた高校へ行ってしまう。その状況をなくしたい。高校生活は人数が多い方が楽しく過ごすことができそうである
- ・中学校で頑張った部活動では廃部や休部で続けられない様子を目の当たりにしている。これ以上部活動の数が減ることを避けてあげたい
- ・多様な対応が期待できる。学校行事等での生徒の単独移動はさせたくない。移動は単純な通学のみがよい
- ・まとまった人数になることでいろいろな行事や活動が可能となる
- ・1校5学級の方が部活動や学校行事が活発になる。進学と就職に対応できる選択科目を開設してくれると通学に時間がかかるとしても多くの人数と一緒に学べることはいいと思う
- ・まとまった人数になることで部活動や学校行事がより活発になる。多様な価値観に触れるなか社会性・人間性の育成が一層期待できる

(その他)

- ・子どもの数が減って教師の確保が難しくなると、質の良い教育が受けられなくなりそう。部活も減って選択できなくなりそう

- ・人数が少ないのは何かと都合が悪いと思う
- ・資料2の①のとおり
- ・それぞれの子供に合った可能性が広がりそうな気がする

②本校4学級+分校1学級を選んだ理由（15人中のうち、11人回答）

【熊野市】

- ・1校5学級が望ましいが、進学の手やすさ、地域の反発を考えると現時点では②がベターであると思う
- ・社会性の面で人数は多い方がよいが質は落としたい
- ・進学希望のため進学する予定でない生徒と同じ校舎で過ごすのは悪影響をきたすおそれがある
- ・通学が大変なこともある

【御浜町】

- ・1校に統合すると通学が難しい生徒もいるかもしれない。部活動や学校行事が継続するためにある程度まとまった人数が必要と考える。選択肢は多い方が好ましい
- ・それがいいと思ったから
- ・メリットが大きいのと感じる。姉が本高に通っていて通学面の負担は同じと考える。通学・部活動の面を考えて選択すればよい
- ・進学に強い木高を4クラスにしてほしい。部活動も合同にし中学で続けてきた部活を続けられたらいいと思う
- ・生徒の通学環境が選択できる。大学進学のために必要な選択科目が開設できるから

【紀宝町】

- ・選択肢にも一長一短があり難しい選択である。できるだけ多様なニーズに対応できるのは②だと思った
- ・大学進学に対応する選択科目の開設。部活動の継続。生徒の進学環境が大きく変わらないため

③本校3学級+分校2学級を選んだ理由（41人中のうち、32人回答）

【熊野市】

（連携の必要性）

- ・連携した教育活動の方が良いのではと思ったからです。
- ・現状維持なら今までの議論の意味がなくなってしまう。何らかの形で一步踏み込んだ形にして今後の年少人口の動向を見ながら議論を継続していけばいいと思う
- ・統合の場合、今まで交流のなかった2つの学校が連携してできるが増えるのではないかと。統合により少なくなった子供たちのつながりが増えるのではないかと。少なくなった時こそ知り合いや顔見知りが一人生でも増えることは今後生きていくために財産になると思う
- ・統合しないことが望ましいが生徒数の減少を考えると統合も必要だと考える。お互いに良い刺激になるよう教育者の配慮が必要で難しい気がする

（校舎の選択が必要）

- ・学力差で選択するならば向上心や考え方を共有するのは1校で全員学ぶように持っていくのが難しいと思う。今の中学にもいろいろな生徒がいるので教育者の方が大変なのではないか
- ・通いやすい学校を選択することができる
- ・2つの校舎がよい。本校と分校のバランス

（通学のしやすさ）

- ・1校に統合したら通学困難な生徒がでる可能性があると思う
- ・通学の利便性。1学級ではできることが限られてくる。同級生も多い方が楽しい時間が過ごせると思う
- ・通学しやすい
- ・生徒数の減少により統合は仕方ないと思う。分校なら通学時間の差があまりつかない

（その他）

- ・①2校統合だとどちらの校舎を使用するのかでもめそう。②は分校の生徒が良い教育を受けられない。④は現状変わらず先々協議が必要で③を選択した
- ・統合しても2校の特色をいかした学級編成にこだわらず、好きな場所で学べる環境を残すべきである。木本高・紀南高はともに地域に必須な勉学の間である。どちらか片方に寄せるのではなく、特色のある2校を存続させる方法論を議論すべきである。全国では地域色のある学校が存在意義を持ち始めている。この地域の方が生き抜く土台として外から受け入れるべきである
- ・その方が学びやすい

【御浜町】

(連携の必要性)

- ・高校の特色をいかして子供の幅広いニーズに応えるため
- ・1校で連携した教育活動に取り組むことができる。2学級規模の校舎できめ細やかな指導や地域と協働した学びを継続することができてよいと思う。大学進学に対する選択科目の開設や部活動・学校行事の縮小が考えられるときは生徒数が更に少なくなる時に2校を統合してもいいかなと思う
- ・1つの高校として連携した教育活動に取り組みことができる。地域と協働した学びを継続できる。先生・生徒等の出会いの機会が増える

(校舎選択の必要性)

- ・進学・就職活動の人数に対しての枠と部活動等での人数の幅の面から1つの学校に統合すべき。本校と分校に人数を半分ずつ分けて子供の選択肢と視野を広げる経験をさせる
- ・統合して学ぶより分校にして少人数にした方が一人ひとりの教育の質が上がると思う
- ・分校にすることにより子供たち個々に応じた環境の配慮がしやすいかなと思う

(通学のしやすさ)

- ・通学に時間がかかるのは大変である
- ・通学の関係も多少あると思う
- ・部活動の人数によって学校が選択できなくなったりしないようにしてほしい。通学の負担に公平性があるように。分校の人数が少ないと本校と差がついてよくないと思う
- ・②なら分校人数が少なくなると思うので今のところは③を選んだ

【紀宝町】

(連携の必要性)

- ・2校を統合した方が進路や就職の選択が広がり子供たちの視野が広がるように思う
- ・生徒数と教員数が減っているなら統合してなるべく一人ひとりの指導をしてほしい。分校1学級より2学級の方がバランスがいいと思う

(校舎選択の必要性)

- ・進路が様々なので進学組・就職組での指導方法をしっかり分けてほしい
- ・校舎は分かれていた方がよい。統合するかしないかはロスが少ない方にするのがよい

(通学のしやすさ)

- ・通学環境が大きく変わらないのがよい
- ・進学しやすい
- ・統合は通学時間がかかる生徒が出てくる。交通費の負担がかかると思う。2つの校舎で学ぶことでそれぞれの特色を生かした学校になることが期待できる。一人ひとりきめ細やかな指導をしてほしい
- ・分校2学級の方が学びやすそう

④1校3学級+1校2学級を選んだ理由 (149人のうち、101人回答)

【熊野市】

(それぞれの良さを残す)

- ・生徒それぞれの学力や将来の進路希望に合わせた学習環境を整えてほしい
- ・それぞれの学校のいいところや悪いところをみてほしいから
- ・1校は主体的に勉学いわゆる進学校に、もう1校は農業を学べる専門的な学校にする。この地方のみかん等農業の担い手育成につながればよいと思う
- ・統合ではそれぞれの学校の特色がなくなる。中高一貫のような感じになる。子供も緊張感がなく勉強に力が入らなくなってしまうような気がする
- ・小規模であってもそれぞれの伝統を守り続け独自の学習方法や進路指導を継続してほしい。通学しやすい環境を重視する
- ・2校とも特色があるのでそのままがいい
- ・今までと同じでよいと思う
- ・それぞれの学校で学ぶのが望ましい
- ・学校特有の伝統・魅力・個性等を大切にしたい。それを踏まえた子供の選択肢を考えたい。選択肢を減らしたくない
- ・一つの学校に集約すると個性が出せるのだろうか
- ・人数が減って問題はあると思うがそれぞれの学校で子供たちの学びたいこと、やりたいことを学んでほしい
- ・学校の特色を生かして、学ぶ生徒にあった教育をして欲しいと思ったから
- ・進学を希望できる学校と就職につながる専門的知識や技能・資格を習得できる学校。それぞれの特色を生か

した学校を作り学んでいくことが必要だから

- ・生徒の学力レベルが違いすぎる。統合はレベルの低下やレベルについていけない等進学や就職に影響が出るのではないかと危惧する。資料にあるような生徒一人ひとりへのきめ細やかな指導や学びを継続してほしい。部活動や学校行事の縮小は致し方ない
- ・一人ひとりのきめ細やかな教育をしてほしい
- ・生徒の通学環境は大きく変わらないし、一人ひとりのきめ細やかな指導が期待できる

(学校選択の大切さ)

- ・それぞれの高校がそれぞれの教育活動をすれば子供の選択肢が増えるような気がする
- ・家から通える学校の選択肢を残してほしい。子供にも自分の人生を考えて学校を選んでほしい。選ぶ権利すらなくなるのはかわいそうだと思う
- ・それぞれの学校の良さをいかした教育をしてもらいたい。一つでも選択できるようにしてほしい。それができることを望みたい
- ・高校を選ぶことができなくなる
- ・子どものこれからの人生は選ぶことがたくさんあると思う。一番最初の選択として統合しないでほしいと思う
- ・両校ともそれぞれ特色があり、子供に合った学校を選ぶことができる
- ・子どものいきたい学校へ行かせてあげたい
- ・高校がなくなると地域の活気がなくなると思う。選ぶ高校がないのもつらいと思う

(通学のしやすさ)

- ・交通が不便なため
- ・通学の問題と統合かそれぞれの学校で学ぶかであると思う
- ・通学しやすい場所であるとありがたい
- ・通学のしやすさ
- ・通学の都合
- ・家から遠くなると困る。交通費が上がると通えなくなる。
- ・通学面や進学について考えると出来るのであれば今のままでよいと思う。

(その他)

- ・尾鷲高校は統合して失敗したと思う
- ・統合は反対である
- ・子どものレベルに合った学校で学ばせたい。友人関係で悩む子には離れることも大切である
- ・学校がなくなった方に影響がでそう
- ・地域から学校をなくすことはつらいと思う。休校にしても一度休校すると再開がとても難しい
- ・統合による効率より公共交通機関や地域の産業に与えるデメリットが大きいと感じる

【御浜町】

(それぞれの良さを残す)

- ・それぞれの良いところを残すため
- ・学力を学校で分けて学習するため。進路のため
- ・それぞれの学校の良さを残すことができる
- ・大学進学と就職につながる教育をそれぞれはっきり特色を分けた学校にしてもらいたい。今もある程度特色があると思う。2校を統合するくらいなら今のまま2校ではっきり教育方針をわけてはどうか
- ・国公立の大学を目指して進学する子就職する子では授業の到達目標が違ってくる。一緒のクラスにまじってしまうと難しい。統合すると入学前に進学か就職か選ぶことになってしまわないか
- ・統合せずにそれぞれ特色を出せば良いと思う。
- ・今のままいけるところまでいってほしい

(学校選択の大切さ)

- ・生徒数に関わらずそれぞれの学校の特色をいかして運営してもらえばいいのではないか。子供たちが将来どうなりたいか、そのためにどんなことを学びたいのか考えると思うので選択肢がある方がいいかなと感じる
- ・過疎地域の公立高校だが2校統合せず選択して高校受験をさせたい
- ・小さな地域ながらも自ら選択し選んでいくことをしてほしい
- ・将来統合は仕方のないことになりそうだがあまりに選択肢が狭くなり、できれば現状維持してほしい

(通学のしやすさ)

- ・通学環境をあまり変えたくないため
- ・2校が存続することで生徒の通学環境が大きく変わらない
- ・通学のしやすさ

(その他)

- ・進学する子が少なくなるかもしれない
- ・令和7年度は現県立高校の定員を少しばかり下回っている程度である
- ・今の状況で困ることがないから。校舎を建て直すのは場所がなかなか決まらないと思う
- ・この地域の高校が1つになったら受験に失敗したらどうなるのか
- ・統合は地域を廃れさせる
- ・統合のメリットにあまり共感できないため。統合が必要なほど生徒数が少ないと思わず一人ひとりがきめ細やかな指導を受けやすくなりむしろいいと思う。Zoom等を活用し他校と関わりを持つこともできる。生徒数の問題だけでいえば、他県からの受け入れに対応したり県内でも遠方から受け入れられるよう寮を整備したりの対策の方がよいと思う。統合はあらゆる経費が長い目で見れば抑えられるがそれは県の財政が助かるという大人の事情に過ぎない。全く子供のことを考えているように感じない。絶対的なこの地域だけの生徒数を増やすことをすべきである

【紀宝町】

(それぞれの良さを残す)

- ・それぞれの高校の地域における役割が異なるため統合せずそれぞれ特色を持った学校として存続していただきたい
- ・今までそうしてきたから
- ・多様性の維持のため
- ・校風が違うため。統合後の学校の場所や学科がどうなるのかにもよるが、統合によって学べる選択が減ってしまうのではないか
- ・それぞれの学校の良さがあるので選べるようにしてもらいたい
- ・それぞれの学校で学ぶ方がいい
- ・今ある学校を無くしてほしくない。少人数の方が一人ひとりに目が届きやすい。丁寧な指導が受けられそう
- ・両校それぞれの良さがあると思う。自分に合った学校が選べる
- ・今まで通りがよい
- ・現在の2校の学習レベルが違いすぎるため
- ・学力に差が出て授業についていけない子が出てくる。それぞれに個性がある高校をひとつにするのは難しいと思う。進学・就職にそれぞれ強いいいところがあるので統合はしない方がいい
- ・今まで通りの形で学んでいったほしい
- ・④の案があるのなら今のままでよいのではないか。統合となれば制服・体操服が変わったり、おさがりなどで考えていた家庭にとって負担になると思う。②③は結局今と同じ感じなのかなと思う。今のままでいいのではないか
- ・木本と紀南のレベルが違いすぎるので統合しない方がいいと思う
- ・それぞれの学校の特徴、進学の強みがあるのでそれをいかしてほしい。1校になった場合どちらの学校(木本あるいは阿田和)に通うのか気になる
- ・①の1校5学級のメリットがある反面④を選択したのは知れどに丁寧な教育行き届きやすさを重視できると感じるから

(学校選択の大切さ)

- ・進学・就職希望者それぞれの学び方に力を入れてほしい。友達関係等通学しやすいことも考えて選択できるとよい
- ・親の立場になれば統合もよさそうだが、子供たちのことを考え、進学や就職する生徒に対してどちらも力を入れてほしい。友達関係でも選択できる方がいいと思う
- ・この地域で進学先が選べなくなる。進学と就職で勉強内容が違う
- ・選択肢がある方がいい
- ・統合せず独立している方が選択肢があってよい
- ・子ども自身も含め選択を考える
- ・それぞれの学力、子供たちの進学先への選択肢が少しでも多く余裕があるようにしてほしい
- ・各学校の長所があるので、子供がああ学校のここがいいので行きたいと思って考える選択肢が多い方がいいと思う
- ・小規模な学校になるのでそれぞれの特性を考えて選択させてあげたい

(通学しやすさ)

- ・生徒の通学環境が変わらないため
- ・学力に合った学校で学びたい。自宅から自転車で通える学校を選びたい。学力がついていけないとか無理のないような学校生活を送ってほしい
- ・遠くなると通学にお金がかかる
- ・通学など不便な面もあると考えた
- ・通学が大変になりそう。③なら④のままでよいと思う
- ・2校統合は通学が不便。統合して学級数が増えると先生の目が行き届かない。分校の案は教員の減少でICT

等でカバーできるのか心配

- ・通学しやすい
- ・生徒一人ひとりのきめ細やかな指導、地域と協働した学びを継続してほしい。通学環境が変わらないのが望ましい

(その他)

- ・本校と分校の位置づけの目的が分かりにくい。統合する・しないではなく分校という形をとるメリットがわかりにくい
- ・他はややこしくなりそう
- ・学力低下の心配
- ・生徒一人ひとりに先生方も行き届く気がする
- ・少人数の方が一人ひとりへの指導が行き届くから
- ・本人が入りたい部活動があるため
- ・統合だけでは問題の解決にならない。いずれは2校では済まない統合の話が出る。今のうちから独立維持の取組を進めておくべき。統合は最終手段であり、悪くても2校統合で収められる基礎固めをしたほうがよい。OBやOGを含め地域との繋がりを維持してほしい
- ・あまりイメージできない
- ・出来るなら2校あった方がいいと思う
- ・統合する良さが無い
- ・統合しても何も変わらないと思う

無回答者の意見(25人のうち、8名回答)

- ・統合せずにそれぞれの学校で学ぶという意見である。学級数を減らすことには反対である
- ・わからない
- ・子供の将来を学校に任せられないと思う。不安でしかない
- ・学力・通学は自身の目標であり高校生活での自分の進路は子供自身がしっかりと考えると思っている
- ・現時点で意見できない。分校の場合どのような分校になるのか明確に聞いてみたい
- ・意味がわからない
- ・学級数が減るのは反対
- ・大人の意見も大事だが子供たちの意見も聞いたうえで考えるのもありかと思う。どれがいいのか選べない

4 今後の紀南地域の県立高校の学びと配置のあり方について、ご意見があればお聞かせください。

【熊野市】

(統合やむなし)

- ・生徒数減少は明らかなことなので統合するしかない。校舎の立地場所として現高校を利用する方向で新設する場合は、その費用を公費にまわして新高校の教育や校舎の補修修繕に使う
- ・少子化が進んでいるので統合は仕方がないと思う
- ・統合に賛成だが第一志望しか選択肢がないと受験にもし失敗したときどうすればよいか不安。統合を機に制服を一新してはどうかと思う。木本の制服は特に
- ・2校のうちどちらかの校舎を使えばよいと思う

(2校存続を希望)

- ・統合は避けられないかもしれないが、正直2校の存続を希望している。厳しい中でも教師の確保・安定した学習環境を求める。学校が減ると地域のコミュニティが崩れる。議論の際は公的な発想だけでなく民間の意識を持って取り組んでいただきたい
- ・木本と紀南の学校では学びが違うため統合はやめてほしい。統合せざる得ない場合は校舎を新しく2校の中心の場所を作ってほしい
- ・分校にするのは望ましくない。授業によってはオンラインでという発想なのかもしれないが、人間関係は時間と空間を共有しないとうまくいかないという研究もある。オンラインでは空間が共有できず教育が最大にならない
- ・今のままできるだけ継続してほしい

(新校舎の設置について)

- ・2校はどちらも災害に対して不安がある。久生屋・金山で三重交通バスを利用し新設すればいいと覆う
- ・2校とも海の近くであり津波の危険がある場所にあるので、安全な場所に移動したらいいと思う
- ・今後、災害(地震、津波等)が来ると言われている中、配置を考えるべきではないでしょうか。
- ・水害の心配のない場所への移転を希望。通学に負担にならないようバス等の交通機関の整備等を希望
- ・南海トラフ大地震対策の観点から木本高校は金山町へ新築移転。偏差値教育からの脱却。暗記する力より調べる力がこれからの事態は必要かと思う
- ・統合ではなくこの地域で新たな学校を1校つくるという考えである。今まで両校の歴史の中で築いてきた進学・就職の有利な面を合わせ持った学校をつくってほしい
- ・2校のどちらかという意見が分かれるので2校をいかしつつ(体育館・進路別に校舎をわけ)真ん中あたりの場所がいいと思う

(学校の選択肢について)

- ・県立高校の選択が少ない
- ・2校という選択肢がないのは子供たちにとってどうなのかなと思う
- ・学校自体の選択肢がないので、学内で選べる学科・コースがよいのではないか
- ・近くにある高校の数が限られている。経済的にも希望する子は入学できるシステムがあるといいと思う

(県外高校への進学等について)

- ・統合の場合通学環境次第で県外に生徒が流れることが考えられる
- ・県域にこだわらず通学を第一に三重・和歌山・奈良で自由度の高い連携をお願いしたい
- ・現状の配置を維持する場合、県境をこえての受け入れを許可する等新しい取り組みが必要と考える

(通学について)

- ・統合の場合、通学が困難な子のために寮やスクールバスを検討していただきたい
- ・通学用のバスは確保してほしい
- ・部活動が遅くなったり通えない生徒のため寮があると助かる
- ・できれば金山辺りに新しく建ててほしい。遠い生徒はスクールバス。美術系のコース等あれば将来の選択肢が増えそうである

(部活動の大切さについて)

- ・紀南高校のように2学級では部活動の人数確保が難しく、本来高校は多くの人と出会い学び、成長していく場であるのに、中学校と同規模の活動に制限されてしまう。紀南地域では少子高齢化・過疎化が進んでいるうえに、部活動が強化されている他所の高校に子供たちがどんどん進学してしまっている悪循環がある。統合により子供たちの進路によってコースや学科を選択できるよう、更に部活動や行事をもっと盛り上げて魅力ある高校を作ってほしい
- ・部活動が少なく残念。時代に合わせた新しい部活を作るのも必要であると思う。保育所から中学でダンスを取り入れているので少人数からでもできるダンス部のような部活があればよいと思う。子供たちの声をもう

少し聞ける地域になればよいと思う

(高校のあり方の決め方について)

- ・それぞれの地域の意見はすでに十分に聞いたと思う。全員が満足する結論はでない。県立学校なので県があり方を決断すればいいと思う
- ・保護者と地域に意見を求めても居住地から高校がなくなることを反対するのは明らかである。保護者や地域に丸投げするのではなく県の方針をしめして将来の地域や子供たちに良いと思えるよう県の責任で住民に理解を求めるべき

(その他)

- ・単純に人口推移で何年後に子供の数が減っているから統合する議論に落とすのではなく、この紀南地域にどのように子供たちの生活の場ができていくのかを見据えて学びの場を考えるべきである。人口が減っている現在何をしても稼げた昭和の時代ではなく人類が初めて迎える負の時代を子供たちに背負わせる事実を大人は考えるべきである。都会で国公立の優秀な人材を競わせるのではなく地域に本当に必要な人材をどのように雇用できるかを切実に検討すべきである。SDGS にあるように経済下に社会と人間性がありそこに一番重要な環境があることを本当に大切に思えばこの地域の重要性が更にクローズアップされるはずである。県立学校の存続の意義を見直すべきである
- ・超高齢化及び過疎化した地域だが未来ある子供たちがいることは事実で、その地域ならではの環境をいかしながらも都心部に住まう子供たちと変わらない学習環境を与えてあげられると考えている。そうすれば地域にとどまらず三重県全体の学力・能力アップにつながるのではないかと思う。輝く未来を子供たちのために広げてあげてほしい
- ・やりたい部活や勉強のためにこの地域から出て進学することが止められない。残る子がどうなるかだと思うので進学なのか就職なのかははっきりカリキュラムが違うのは現実的だと思う。続けてほしい
- ・それぞれの高校の特色を生かせればと思う。学校を作るのは時間がかかる。新しくしたからといって本当によいかどうかはわからない。今の現状をよりよくしていく方がよいと思う
- ・運動部に入りたくない、親に無理やり入部させられている中学生にパソコンを与えて自由に楽しく学習できるクラブ活動を全国に作って、プログラミングやゲーム作成、音楽、映像クリエイティブの大会を開いてロボコンみたいに競わせたら、眠っている人材を発掘し、ITの環境も広められると思う
- ・子ども数も減るから学校を減らすのではなく、少人数学級を増やし、教員も増やし、生徒一人ひとりへのきめ細やかな教育をしてほしい。子供の数が足りないのではなく、教員の数不足だと思う。少人数クラスでよい教育をしていると、将来的にそれを求めて移住する人も増えるかもしれない。人数が少ない学校だからこそできることはあるはずだと思う
- ・この地域の県立高校の在り方は人口増減に関係しているので、県と市町の人口減対策の担当課と首長がともに真剣に考えてもらう必要がある。それぞれバラバラにがんばっても成果が上がらない。林業・漁業・農業（かんきつコース）・介護・整体・ヒーリング等の特徴的分野を学んだり社会人と協働でITを使用した効果的で楽しい成果の上がる働き方を研究してほしい。この地方や社会や日本を明るくするような学校のあり方をどんどん考えて実行していかないと手遅れである。子供が健全に充実していると大人も元気になる。よろしくお祈りします
- ・夜間高校と通信制高校を作してほしい。熊野市の貧困者は昼間しか働くところがない。統合したら交通費が上がる。その支払いができなくて学校をやめることになる。統合せず学校行事は2校合わせて行えないのか。①～④までしかない。受験に落ちたときのため夜間高校と通信制高校があるとよい
- ・進学にも就職にも積極的に関わってほしいと思う。2校が統合した場合在校生はどうなるのか
- ・前期試験は遊んでしまいどうかと思う。後期試験を受験する子たちに影響が出てしまう。勉強と部活の割合が学生なので、学力をつけてもらいたい。1校を分校とするなら普通科と総合で学校を別にしたらいいと思う
- ・県内で学力差が出ないようにしてほしい。優秀な生徒は自分でできるが引き上げてほしい子供が置きざりになっている
- ・2校を統合した場合、入学できない子供が増えないか心配である
- ・学びについて「大学進学に対応する選択科目の縮小」とは具体的にどの科目のことをいうのか。文書の内容はわかりやすいが、全体的に具体的な面が少しわかりづらい。生徒へのアンケートはもう少し具体的に説明してほしい
- ・③になったらそれぞれの校舎に進学クラスをおいて進学に注力してほしい
- ・広い？のであれば特に問題ない
- ・難しくわからない。その時になったら子供のいきたい学校にいかせるつもりである
- ・国公立大学を目指せる学習指導が受けられたら①～④どれでも構わない

【御浜町】

(統合やむなし)

- ・今後数年のうちに児童生徒の増加が見込める状況にないと思う。子供たちの学びを考えるうえで2校を存続させる合理的な意義はないものと思う。地域の活性化など地域における学校の存在価値が高いことも理解できるが、将来紀南地域の高校に通うことになる子供たちや若い世代の保護者の意見を重視した検討をお願いする。またもっと早い時期に検討を行うべきだったとも感じる
- ・生徒数の減少により統合の選択はやむを得ないと思う
- ・子どもたちの学びを優先するのが本来。地域のことも考えるべきではあるが、子供の進路実現できる高校運営ができてからのこと。1～2学級で質の高い学びは保障できない
- ・統合は様々な問題があり難しいと思うが中学3年生の子供たちが受験に向けて勉学に励まなくなる環境だけにはなあってほしくない
- ・今まで通りの2校両立は難しい。利点は全ての案において納得できる素晴らしい内容だと思う。
- ・統合することで学力の差がある生徒の対応が課題になるかと思うが上記の通り効率化することで柔軟できめ細やかな対応ができるのではないかと思う
- ・今後少子化が進めば2校の統合もやむを得ない
- ・4学級になるなら統合やむなし
- ・統合は仕方ないと思うが統合された学校の地域がさびれて活気がなくなってしまうことが寂しい
- ・2校を統合するなら進学コースと就職コースにわけてほしい。それが可能なら統合した方がよい

(新校舎の設置について)

- ・災害に強い高校を作る。特色のある高校を作りこの地域以外の生徒を呼び込む
- ・異常気象や南海トラフの可能性を考えると安全な立地に学校があってほしい
- ・どちらの高校も災害時に不安がある立地である。どちらかの校舎をという統合には抵抗がある。通学も考慮しなくてはならないが新しくどこかに適当な建物がないか、建て直すのか等、考えてほしい
- ・新しく学校を作るのなら高台にして地震・津波・台風時に安心できる場所で避難所の一つとして使っていける場所にしてはどうか
- ・2校とも今の場所では自然災害の被害がありそう。思い切って移転させた方が将来のためになりそう。母校なので思い入れはあるが
- ・真ん中にあたる御浜町が好ましいと思われる。立地条件が悪いため紀南高校の場所は好ましくない

(魅力ある学校づくりについて)

- ・単に合理性だけでの統合は駄目である。子供たちにこれまでのような勉強やクラブ活動の機会を作ることが大事である
- ・紀南地域の特色を出した高校にして欲しい。他県から生徒が来るような魅力的な学校に。
- ・子どもが少ないからといって学びたいことを我慢するのないようにしてほしい。地元の高校に魅力がなく地域から出て行ってしまいうがが増えていくような結果にならないでほしい
- ・地域外への進学が増えないようにするため魅力的な学校づくりを真剣に考えていってもらえればよいと思う
- ・ICTを活用し他県や外国の方からも授業を受けられるようにしてもらいたい
- ・生活面では支障がなく、学力面で障がいを持っている子どもでも入学できる高校があってもいいのではないか

(その他)

- ・進学率の高まりを踏まえ全国的な共通テストや大学受験で苦労しないレベルの学習を望む。地理的に災害に強い場所を望むが、県内外の統廃合ではどちらかの学校にというのが一般的でありそれでよいと思う。2校だときめ細かく、1校だと人数に対応できないとリードされていると感じる。生徒の数は年々少なくなるので統合は問題であるとは感じない。通学時間も問題視されているようだが、実際家と学校間の距離で進学先がどれほど選択されているのか。進路や成績で選択していると思う。実際尾鷲から新宮の私立高に通学する生徒もいる
- ・道ですれ違う紀南高校の子は化粧を頑張っているように見える。自分の子もそんなふうになるのかなと心配になる。木高の子は見る機会がないのでわからない。イベントであった紀南のJRCの子たちはボランティアを一生懸命していてとても好感がある
- ・1校に統合すれば支援が必要な生徒から難関大学への進学を目指す生徒まで幅広い生徒が学ぶことになる。選択肢がないことから配当基準を見直し加配を得ることで対応していただきたい。北勢・中勢のように自宅から通えるところに複数の学校があったり、学力的に近い生徒が在籍するのと明らかに対応に困難が伴うことが容易に予想できる
- ・東紀州もオワコンである。どこかの島のように中学卒業とともに子供がすべて出ている未来しか見えない。陸なのに
- ・小・中・高・特別支援学校ができるだけ近いところに建てられることで子供や教員同士の交流、学びができるようにしてほしい。公立の短大・専門学校等ができればこの地域の学校で学ぼうという生徒や他地域からのアイターンで移住しようという人たちも増えるのでは。子育て世代の人口を増やすために、行政や地元企業等との連携が必要。障がいのあるなしに関わらず一人ひとりの生徒希望に応じて進学先を選択できるように

- してほしい。特別支援学校との統合も将来的に考えてはどうか。(不登校の生徒の受け入れも含めて)
- 欠点についてはどのように補うのかどう改善するのか具体的な提示があれば嬉しい。分校は部活動や学校行事が縮小するのではないかと思う
- 統合なら普通科のクラス編成等具体的に示してほしい。紀南の普通科と木本の普通科の特色が違うがどのようにひとつにするのか知りたい。総合学科が増える場合どのようなコースを選択できるのか中身を知りたい
- 学校行事の縮小を考えるのではなく合同で行事を行い生徒同士の交流を深める。教員数を減らさず少人数のクラスのメリットをえる。大きな大学のように時間割を工夫し校舎が2箇所あることをメリットと取るべき。1つの学校にすることで予算と教員数を増やすべき
- 子どもが自分で決めていけるように育ててほしい。失敗したことも経験として積み重ねていけるようになってほしい
- 受験をなくしてほしい。誰でも入学できるようにしてほしい

【紀宝町】

(統合やむなし)

- 少子化に伴う統合は仕方ないと考えている。教育内容のバランスをよくするために1校統合が望ましい。生徒の通学時間が過多にならないよう検討いただきたい
- 平成20年生の子供の現状で学級数の減少はとても厳しいと感じた。高校から地域を出ていく子供が多かったと思う。コロナ禍で出ていく子供も減っているのではないか
- 統合しなければならない時代になりつつあるのは理解できるが選択が難しい。他県においても今までこのような問題の中、統合又は分校にしても結果として選択肢が成功した高校を参考に今後決断してほしい

(2校存続を希望)

- 子どもの数が減少して、それぞれの学校の存続も厳しくなるが、学ぶための選択肢を残してほしい
- 学級数が減ると教員の人員配置も減ってしまうかもしれない。きめ細やかな指導や進路選択において教員の数は減らさないでほしい。生徒数が減るから学校を1校に統合するという安易な考えではなく、この地域の高校は2校必要だと思う。2校を残す形でお願したい
- 紀宝町から木本高校は遠くて不便。電車の定期代も大変だと思う。近くなれば通学しやすい
- 現状通り残してもらいたい。交通が不便なことが大きい。自転車で通える紀南高校は現状通り学びの場にしてほしい
- 現状のままが希望

(県外高校への進学等について)

- 新宮市の県立高校への入学も選択できるよう希望する
- 統合するなら和歌山県の新宮高校等にもいける環境にしてほしい
- 2校統合で1校になった場合、紀宝町在住者は新宮の県立高校に越境進学を可能にしてほしい

(その他)

- 子どもたちの多様なニーズに対応できる高校になるよう慎重に検討してもらいたい
- いろいろな子供がいるのでどんな子にも対応できるような学びの場を提供してもらいたい。将来社会に出たとき苦難があっても乗り越えられる力をつけることを学びの中にも取り入れてもらいたい。次世代を担う子どもたちに明るい未来を自分たちで作り上げていく大人になってほしい。そんな教育をお願いしたい
- 田舎ならではのことももっと取り組んでほしい。紀南高校のみかんの授業やカヌーに乗ったりがとても良いと思う。山登りで紀南地域は美しいところがたくさんあるのでみんなに見てほしい
- 最近の子供たちの傾向を見ていると、大学等都会に出て精神面を壊して帰ってくる子供が多いように思う。バイト等を禁止せず社会に慣れるためにも良いと思うので規則をもう少し考え直してほしい
- 教育を受けたいと思う若者は日本の宝である。十分な教育は学校だけでは足りないのかもしれない。外部に出て協力を求める等若者に投資してあげてほしい
- のびのびと目標に取り組める環境を願う
- 大人の考えだけでなく子供にとってどうすればよいのか考えてもらいたい
- もう少し総合的なクラスが増えてほしい。この地域は通える学校が少ないので子供たちが行きたい学校を自分で選べるような場所ができるとうれしい。今地域を出ないと学べる学校がないので地元で対応できるようなクラス編成やカリキュラムを取り入れてほしい
- 人口が減っているのはわかるが部活動が減ってしまうのは残念に思う。中学で頑張ったクラブを高校でも続けられるよう、自宅から離れた高校までいかななくてもいいようこれ以上減らないでほしい
- どちらかの学校に寄せるなら真ん中の紀南高校を使ってほしい
- 統合する・しないのメリット・デメリットが知りたい
- 統合は学力の差もあるのでそこをフォローできる学習をしてほしい。統合した場所によってつらい家庭が出てくると思う。通学費の補助等フォローがなければ厳しい家庭もたくさんあると思う。しっかり補助してほしい
- 生徒数が少ない学年もあれば多い学年もある。多い学年の子は高校にいけなくなるのではないか
- 2校しかない

高校に関するアンケート

紀南地域の中学2年生のみなさんへ（お願い）

令和4年9月 紀南地域高等学校活性化推進協議会

1 あなたは、どこに住んでいますか。次から1つ選んでください。

- ① 熊野市 ② 御浜町 ③ 紀宝町

2 あなたの学校の2年生の生徒数は何人ですか。次から1つ選んでください。

- ① 20人以下 ② 21～40人 ③ 41～80人 ④ 81～120人

3 あなたが高校を選ぶとき、重視することは何ですか。2つ以内で選んでください。

- ① 大学進学につながる学力向上を目指した学習ができる
② 就職につながる専門的な知識や技能、資格が習得できる
③ 進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択することができる
④ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している
⑤ 入りたい部活動がある
⑥ 多くの友だちや先生と出会うことが期待できる
⑦ 一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が期待できる
⑧ 通学しやすい
⑨ その他（3-2の自由記述へ）

3-2 3で「⑨その他」を選んだ人は、重視する内容を書いてください。

4 高校には様々な学科や課程での授業があります。あなたが高校に進学するとしたら、どのような学習をしたいですか。次から2つ以内で選んでください。

- ① 国語・社会・数学・理科・英語など中学校で学習する内容を深める学習
② 音楽や美術など芸術についての学習
③ スポーツや保健体育についての学習
④ 商品の流通・販売、簿記などビジネスの基礎についての学習
⑤ 介護や福祉関係の職業につくための学習
⑥ 医療や看護関係の職業につくための学習
⑦ 地域の文化や産業等について学び、地域活性化を考える学習
⑧ わからない、まだ決まっていない。
⑨ その他（4-2の自由記述へ）

4-2 4で「⑨その他」を選んだ人は、学習したい内容を書いてください。

5 あなたが入学する高校には、どのような教育を期待しますか。2つ以内で選んでください。

- ① 自ら学び続ける力を育てる教育
- ② 自分の将来を選択する力を育てる教育
- ③ 地域について学ぶ教育
- ④ 人権に対する意識を高める教育
- ⑤ 基本的な知識を身につける教育
- ⑥ ICTを積極的に活用する教育
- ⑦ 広く世界で活躍できる力を育てる教育
- ⑧ 社会性や協調性、コミュニケーション能力を育てる教育
- ⑨ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感を身につけることができる教育
- ⑩ その他（5-2の自由記述へ）

5-2 5で「⑩その他」を選んだ人は、期待する内容を書いてください。

6 あなたは高校に行くとしたら、1学年あたりどのくらいの学級数の高校で学びたいですか。次からひとつ選んでください。

- ① 1学級（生徒数 40 人）
- ② 2学級（生徒数 80 人）
- ③ 3学級（生徒数 120 人）
- ④ 4学級（生徒数 160 人）
- ⑤ 5学級（生徒数 200 人）

6-2 6を選んだ理由で最もあてはまるものを、次からひとつ選んでください。

- ① 友だちや先輩、先生など、多くの出会いがあると思うから
- ② 学習や部活動等で自分の興味・関心にもとづく多様な選択ができると思うから
- ③ 友だちや先輩、先生との関係が深まりやすいと思うから
- ④ 学習や生活面で一人ひとりが先生にサポートしてもらいやすいと思うから
- ⑤ その他（6-3の自由記述へ）

6-3 6-2で「⑤その他」を選んだ人は、その理由を書いてください。

紀南地域の県立高校に関するアンケート

紀南地域の中学1・2年生の保護者のみなさんへ

令和4年9月

紀南地域高等学校活性化推進協議会

本協議会では、当地域の県立高校の活性化について協議しており、その中で進学を控える生徒・保護者の方々の意見を参考に進めていきたいと考えています。つきましては、以下の資料1、2を参照のうえ、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。（当地域の中学2年生を対象に、別途、アンケートを実施しています。）

なお、お子さんが中学校に2人以上在籍され、このアンケートを2枚以上受け取られた場合は、回答済みのアンケート1枚をいずれかのお子さんを通じ、ご提出いただければ結構です。

【資料1】

○グローバル化やデジタル化などの社会の大きな変化、少子・高齢化のさらなる進行、教育的ニーズの多様化が進む中、令和4年3月に策定した「県立高等学校活性化計画」では、これからの子どもたちにとって魅力ある県立高等学校のあり方や活性化について検討し、実現していくこととしています。

○その中で、15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現在の県立高校の配置を続けていくことは難しい状況にあるため、各地域の活性化協議会において、高等学校の学びと配置のあり方についての検討を丁寧に進め、その中で1学年3学級以下の高等学校は統合についての協議も行います。こうした協議は、**統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じて、これまで取り組んできた地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議すること**としており、紀南地域においては、本協議会で検討を進めています。

○令和4年度の紀南地域の全日制県立高校1年生の総学級（定員）は、木本高校（普通科3学級・総合学科1学級 160人）と紀南高校（普通科2学級 80人）で合計6学級、240人となっています。

○本協議会では、15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえ、当地域の県立高校の学びと配置のあり方について検討しています。今年度は、**令和7年度に入学する1年生の学級数の合計が5学級になること**に対して、今後の両校のあり方を統合も含めて具体的に協議を進めています。

	令和4年3月	令和7年3月	令和12年3月	令和16年3月
中学校卒業生数	268人	231人	200人	170人
総学級数	6学級	5学級	4学級	3学級

※中学校卒業生数：令和7、12年は予測値、令和16年は地域の出生数

裏に続きます

【資料2】質問3にかかる関連資料

令和7年度における両校の学びのあり方

①2校を統合した学校で学ぶ（1校5学級）

- ・選択科目をより多く開設することや総合学科の系列を増やすことなどにより、進学や就職に向けた多様な進路希望にも幅広く対応できる。
- ・まとまった人数になることで、部活動や学校行事がより活発になる可能性が広がり、多様な価値観に触れる中、社会性・人間性の育成が一層期待できる。
- ・地域の高校が1つとなる中においても、生徒がより目的意識を持って学習することや、生徒一人ひとりにきめ細かな指導をすることができるよう、総合学科の系列を増やすことや普通科のコースを設置することをはじめ、学校の中に多様な学びの選択肢をつくる工夫などが必要である。
- ・生徒によっては、通学により時間や交通費がかかる場合がある。

②2校を統合して1校を分校とし、2つの校舎で学ぶ（本校4学級＋分校1学級）

- ・4学級規模の校舎では大学進学に対応する選択科目の開設や、部活動・学校行事を機継続することすることができる。1学級規模の校舎では生徒一人ひとりにより目が届きやすく、きめ細かな指導につながりやすい。また、規模は縮小するものの地域と協働した学びを継続することができる。
- ・2校舎が存続することにより、生徒の通学環境は大きく変わらない。
- ・1学級規模の校舎では教員が減少するため、両校舎の教員が移動しての授業やICTを活用した遠隔授業などに取り組むものの、移動時間、2校の日課、効率等を考慮すると、実施できる授業は一部の教科に限られる。
- ・1学級規模の校舎では部活動や学校行事は縮小するため、両校舎の生徒が集まって活動することなどにより社会性の育成に取り組むものの、生徒の移動にかかる負担もあり、合同での活動の頻度は限られる。

③2校を統合して1校を分校とし、2つの校舎で学ぶ（本校3学級＋分校2学級）

- ・両校は統合するため、一つの高校としてより連携した教育活動に取り組むことができる。2学級規模の校舎では、これまでと同様、生徒一人ひとりへのきめ細かな指導や地域と協働した学びを継続することができる。
- ・2校舎が存続することにより、生徒の通学環境は大きく変わらない。
- ・3学級規模の校舎では、生徒数、教員数が減少することにより、大学進学に対応する選択科目の開設や部活動・学校行事の縮小が考えられる。
- ・地域における高校（場所）の選択肢は維持されるものの、両校舎とも3学級以下の小規模な学校となる。

④統合せずに、それぞれの学校で学ぶ（1校3学級＋1校2学級）

- ・両校は独立しているため、各学校がそれぞれの教育活動に取り組むこととなる。2学級規模の学校では、これまでと同様、生徒一人ひとりへのきめ細かな指導や地域と協働した学びを継続することができる。
- ・2校が存続することにより、生徒の通学環境は大きく変わらない。
- ・3学級規模の学校では、生徒数、教員数が減少することにより、大学進学に対応する選択科目の開設や部活動・学校行事の縮小が考えられる。
- ・地域における高校の選択肢は維持されるものの、両校とも3学級以下の小規模な学校となる。

（ 参 考 ）

今年度のこれまでの協議会の概要や配付資料については、下記の県のHPをご覧ください。

第1回協議会（6/7）

第2回協議会（7/14）

<https://www.pref.mie.lg.jp/SINGI/m0044800070.htm>

https://www.pref.mie.lg.jp/SINGI/m0044800070_00001.htm



紀南地域の県立高校に関するアンケート

< 質 問 > あてはまる選択肢の番号に○を付けてください。

(現在の居住地はどこですか。)

①熊野市

②御浜町

③紀宝町

1 お子さんが高校を選ぶとき、重視することは何ですか。2つ以内で選んでください。

- ① 大学進学につながる学力向上を目指した学習ができる
- ② 就職につながる専門的な知識や技能、資格が習得できる
- ③ 進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択することができる
- ④ 文化祭や体育祭などの学校行事が充実している
- ⑤ 入りたい部活動がある
- ⑥ 多くの友だちや先生と出会うことが期待できる
- ⑦ 一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が期待できる
- ⑧ 通学しやすい
- ⑨ その他 ()

2 お子さんが入学する高校には、どのような教育を期待しますか。2つ以内で選んでください。

- ① 主体的に学び続ける力を育む教育
- ② 進路選択の力を育む教育
- ③ 地域と協働しながら課題解決力を育む教育
- ④ 人権意識を高める教育
- ⑤ 学び直しや基本的な知識の習得ができる教育
- ⑥ ICTを積極的に活用した教育
- ⑦ グローバル社会で活躍できる力を育む教育
- ⑧ 社会性や協調性、コミュニケーション能力を育む教育
- ⑨ 社会人として必要なマナーや礼儀・責任感を身につけることができる教育
- ⑩ その他 ()

裏に続きます

3-1 令和7年度に地域の全日制高校1年生の総学級数が現在の6学級から5学級になると見込まれています。このことをふまえ、本協議会では2校の学びのあり方を具体的に協議しています。あなたの意見は以下のどれに近いですか。別紙の資料2を参考に、次の①～④からひとつ選んでください。

- ① 2校を統合した学校で学ぶ（1校5学級）
- ② 2校を統合して1校を分校とし、2つの校舎で学ぶ（本校4学級+分校1学級）
- ③ 2校を統合して1校を分校とし、2つの校舎で学ぶ（本校3学級+分校2学級）
- ④ 統合せずに、それぞれの学校で学ぶ（1校3学級+1校2学級）

3-2 選んだ理由を記入してください。

4 今後の紀南地域の県立高校の学びと配置のあり方について、ご意見があればお聞かせください。

当アンケートや説明資料にかかるご質問等がございましたら、下記までご連絡ください。

（事務担当） 三重県教育委員会事務局 教育政策課 059-224-2951（平日9:00～17:00）

ご協力ありがとうございました。

紀南地域の県立高校に関するアンケート結果

1 中学生を対象としたアンケート結果

A 学びについて

(高校を選ぶときに重視すること)

- ・ 30%を超える生徒が「通学のしやすさ」(31.3%) や、「進学や就職など多様な進路に応じた学習の選択ができること」(30.4%) を重視している。
- ・ 約 25%の生徒が「多くの友だちや先生との出会い」(26.7%)、「学校行事の充実」(24.6%)、「入りたい部活動があること」(23.8%) を重視している。

(高校で学びたい学習)

- ・ 40%近い生徒が高校で学びたい学習について「わからない、まだ決まっていない」(37.9%) としている。
- ・ 40%を超える生徒が「国語、社会、理科、英語など中学校で学習する内容を深める学習」(41.3%) を学びたいとしている。

(高校に期待する教育)

- ・ 約 56%の生徒が「自分の将来を選択する力を育てる教育」(56.3%) を期待している。
- ・ 30%近い生徒が「社会性や協調性、コミュニケーション能力を育てる教育」(29.6%) を期待している。
- ・ 約 25%の生徒が「自ら学び続ける力を育てる教育」(26.3%)、「基本的な知識を身に付ける教育」(24.6%)、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感を身につけることができる教育」(23.3%) を期待している。

B 学級の規模について

- ・ 選んだ生徒の割合が多い順に「1学級」(27.9%)、「2学級」(27.1%)、「3学級」(26.3%) の学校で学びたいとしている。
- ・ 続いて、「5学級」(10.8%)、「4学級」(7.9%) の学校で学びたいとしている。
- ・ 生徒の多くが学びたい学級規模に関係なく、学びたい学級規模を「友だちや先輩、先生など、多くの出会いがあると思うこと」(57.5%) を理由として選んでいる。

【中学生の意見】

- ・ 高校を選ぶとき「進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択できること」や「通学のしやすさ」、「多くの友達や先生との出会い」、「入りたい部活動があること」を重視している。
- ・ 高校では、「5教科などの中学校での学びを深める学習」をしたいと考えている。
- ・ 高校には、「自分の将来を選択する力」、「社会性や協調性、コミュニケーション能力」、「自ら学び続ける力」などを育む教育を期待している。
- ・ 「1～3学級」の学校で学びたいと考えており、その理由は学級規模を問わず、「友だちや先輩、先生など、多くの出会いがあると思うこと」としている。

2 保護者を対象としたアンケート結果

A 学びについて

(高校を選ぶときに重視すること)

- ・約 65%の保護者が「進学や就職など多様な進路に応じた学習の選択ができること」(65.1%)を重視している。
- ・約 28%の保護者が「大学進学につながる学力向上を目指した学習ができること」(27.5%)を重視している。

(高校に期待する教育)

- ・約 40%の保護者が「社会性や協調性、コミュニケーション能力を育む教育」(42.4%)、「進路選択の力を育む教育」(41.0%)、「主体的に学び続ける力を育む教育」(38.1%)を期待している。
- ・約 28%の保護者が「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感を身につけることができる教育」(27.5%)を期待している。

B 令和7年度の紀南地域の高校のあり方について

- ・約 45%の保護者が「2校を統合した学校で学ぶ(1校5学級)」(44.6%)を選択している。
- ・約 36%の保護者が「統合せずに、それぞれの学校で学ぶ(1校3学級+1校2学級)」(35.9%)を選択している。
- ・約 10%の保護者が「2校を統合して1校を分校とし、2つの校舎で学ぶ(本校3学級+分校2学級)」(9.9%)を、約 4%の保護者が「2校を統合して1校を分校とし、2つの校舎で学ぶ(本校4学級+分校1学級)」(3.6%)を選択している。

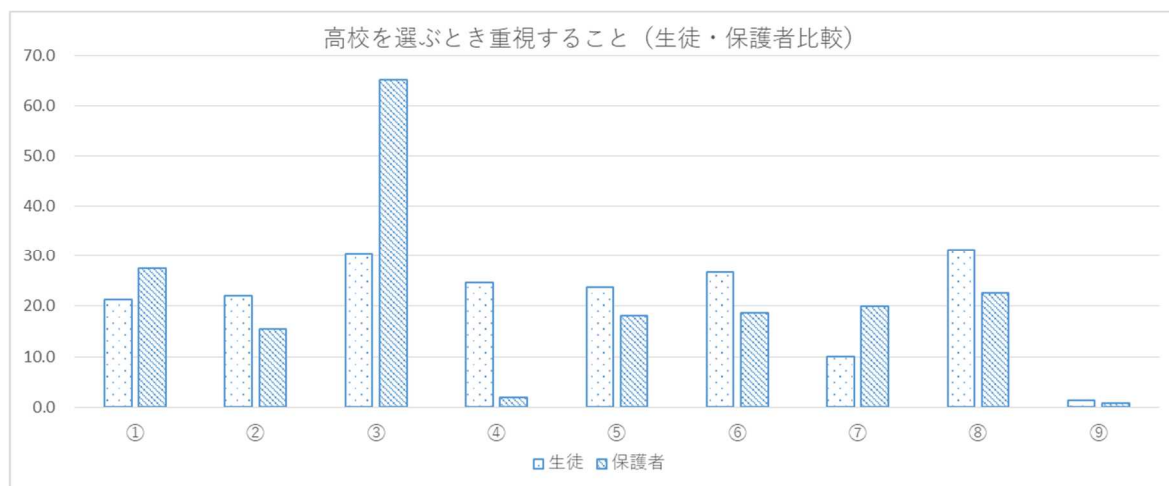
【保護者の意見】

- ・高校を選ぶとき「進学や就職など多様な進路に応じた学習の選択ができること」や「大学進学につながる学力向上を目指した学習ができること」を重視している。
- ・高校には、「社会性や協調性、コミュニケーション能力を育む教育」や、「進路選択の力を育む教育」、「主体的に学び続ける力を育む教育」、「社会人として必要なマナーや礼儀・責任感を身につけることができる教育」を期待している。
- ・令和7年度の地域の高校のあり方については、半数近くの保護者が「2校を統合した学校で学ぶ(1校5学級)」を選択する中、3分の1を超える保護者が「統合せずに、それぞれの学校で学ぶ(1校3学級+1校2学級)」を選択している。

3 生徒と保護者の回答の比較

(1) 高校を選ぶとき重視すること (回答は2つ以内、()は各回答者数に対する割合)

項目	生徒	保護者
①大学進学につながる学力向上を目指した学習ができる	51 (21.3%)	114 (27.5%)
②就職につながる専門的な知識や技能、資格が取得できる	53 (22.1%)	64 (15.4%)
③進学や就職など多様な進路に応じた学習を選択することができる	73 (30.4%)	270 (65.1%)
④文化祭や体育祭などの学校行事が充実している	59 (24.6%)	8 (1.9%)
⑤入りたい部活動がある	57 (23.8%)	75 (18.1%)
⑥多くの友だちや先生と出会うことが期待できる	64 (26.7%)	77 (18.6%)
⑦一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな教育が期待できる	24 (10.0%)	83 (20.0%)
⑧通学しやすい	75 (31.3%)	94 (22.7%)
⑨その他	3 (1.3%)	3 (0.7%)



(2) 入学する高校に期待する教育 (回答は2つ以内、()は各回答者数に対する割合)

項目	生徒	保護者
①自ら学び続ける力を育てる教育	63 (26.3%)	158 (38.1%)
②自分の将来を選択する力を育てる教育	135 (56.3%)	170 (41.0%)
③地域について学ぶ教育	6 (2.5%)	17 (4.1%)
④人権に対する意識を高める教育	15 (6.3%)	15 (3.6%)
⑤基本的な知識を身につける教育	59 (24.6%)	53 (12.8%)
⑥ICTを積極的に活用する教育	20 (8.3%)	28 (6.7%)
⑦広く世界で活躍できる力を育てる教育	23 (9.6%)	48 (11.6%)
⑧社会性や協調性、コミュニケーション能力を育てる教育	71 (29.6%)	176 (42.4%)
⑨社会人として必要なマナーや礼儀・責任感を身につけることができる教育	56 (23.3%)	114 (27.5%)
⑩その他	0 (0.0%)	6 (1.4%)

